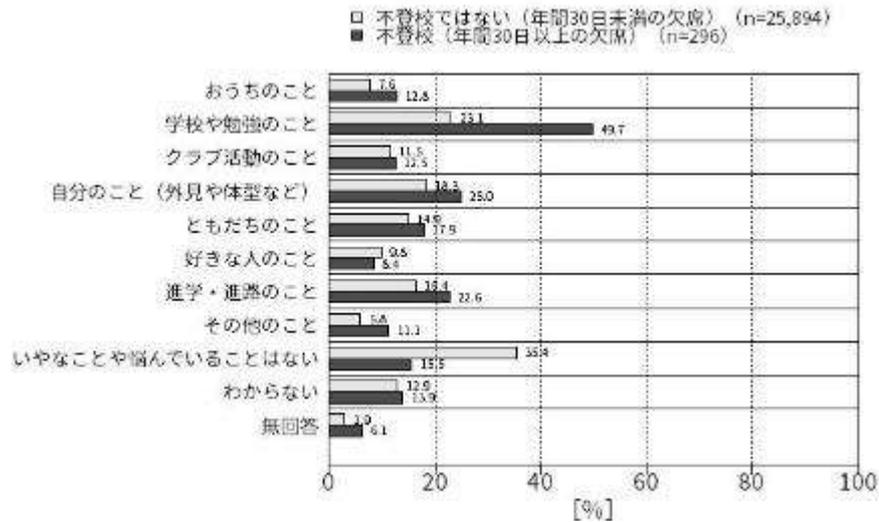


登校状況別に見た、悩んでいること（保護者票 問 21 × 子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

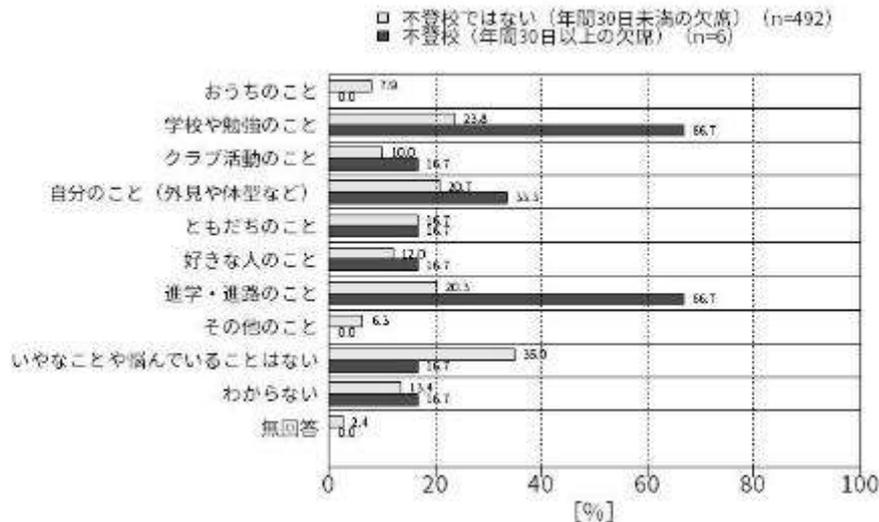


図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

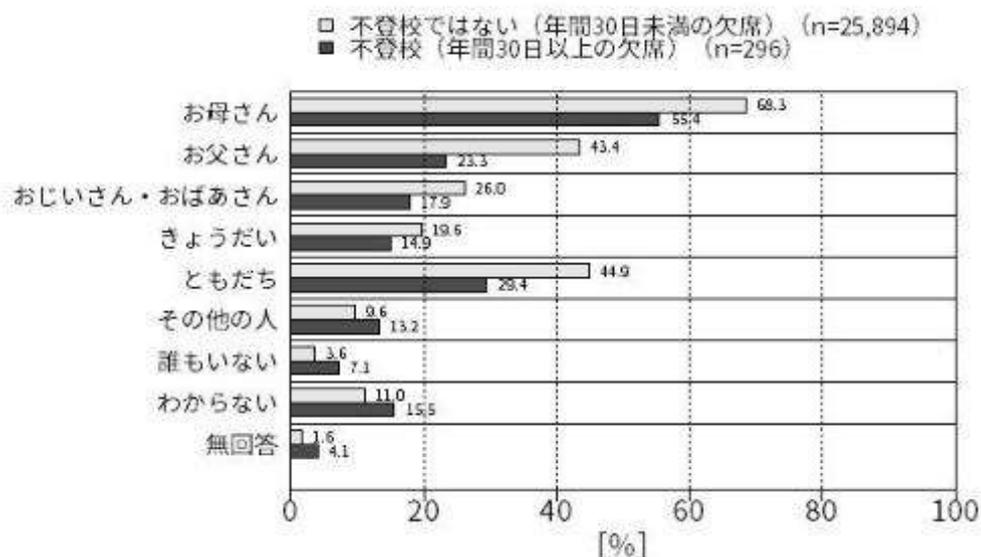
ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「進学・進路のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 3.3 倍、「学校や勉強のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.8 倍、「クラブ活動のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.7 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 35.0%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

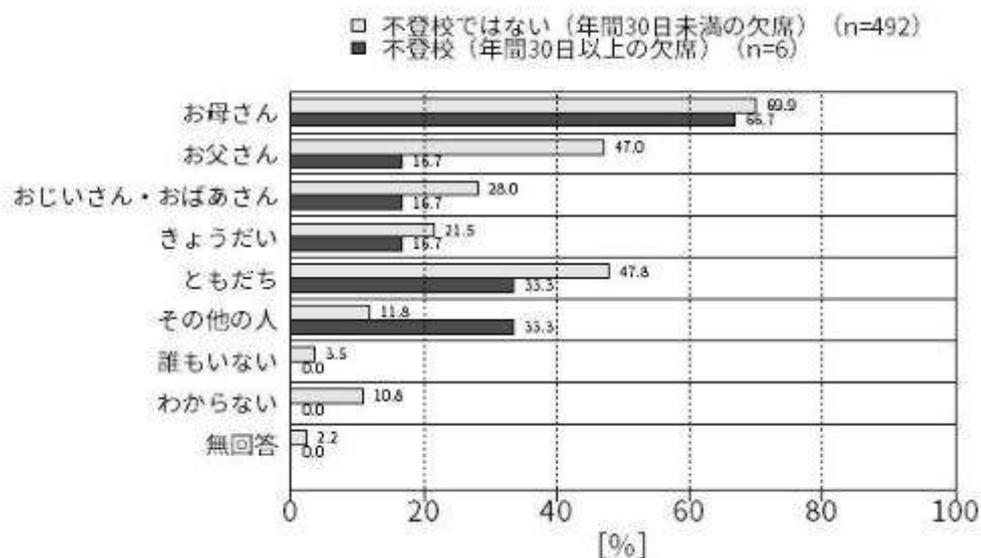
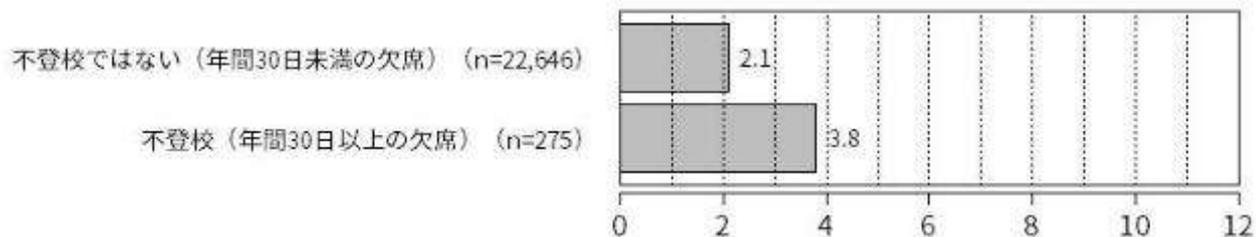


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合に着目すると、「不登校」では該当する回答者はいなかった。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数  
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

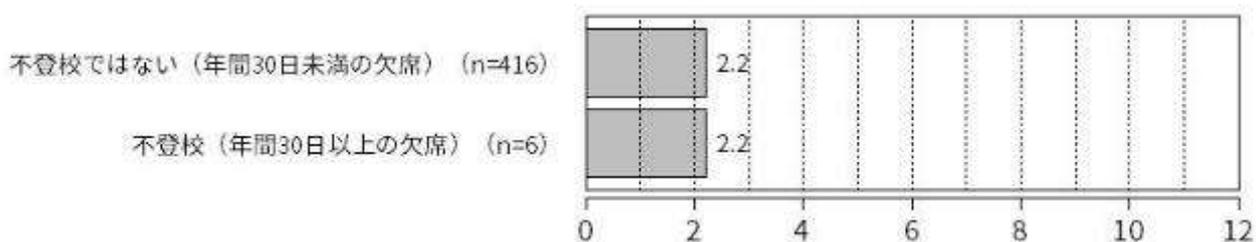


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

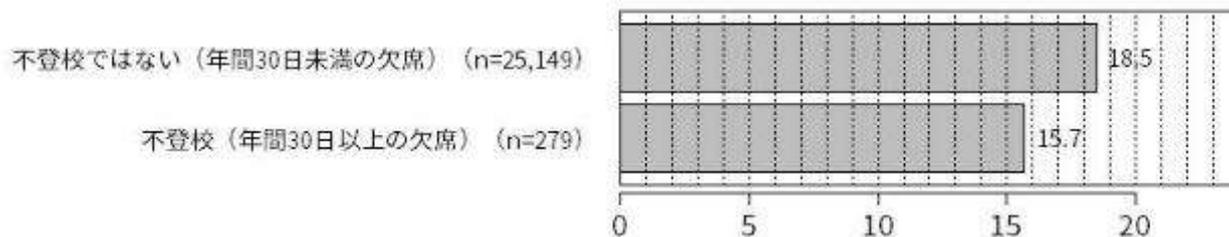
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」か「不登校ではない」かによって差はなかった。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

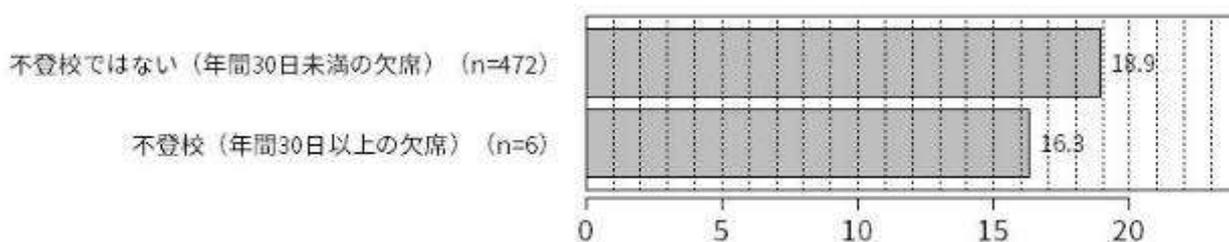
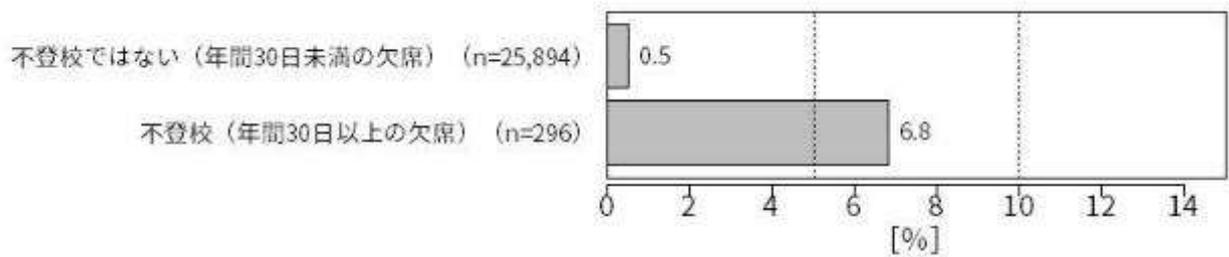


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 16.3 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 3 点低い。

登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合（保護者票 問 21 × 子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

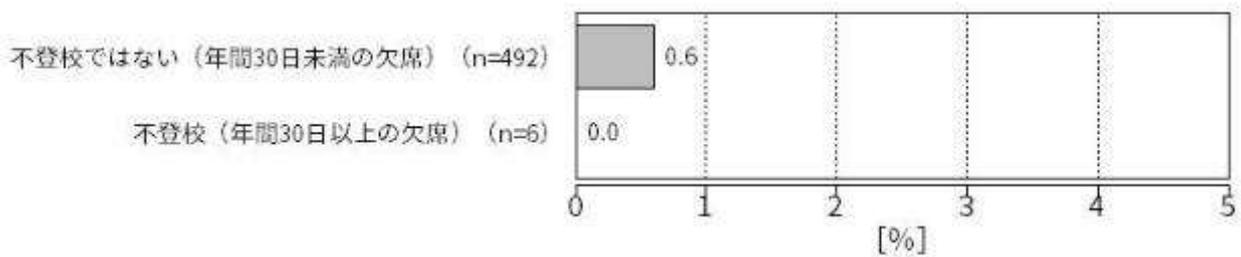
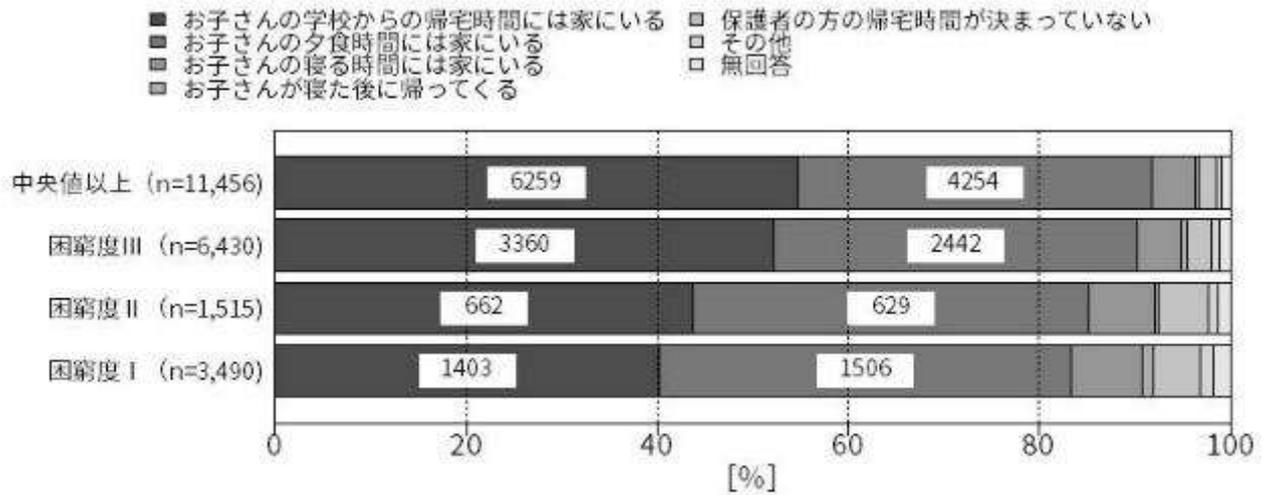


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときにスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、「不登校」では該当なし、「不登校ではない」では0.6%であった。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問10）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

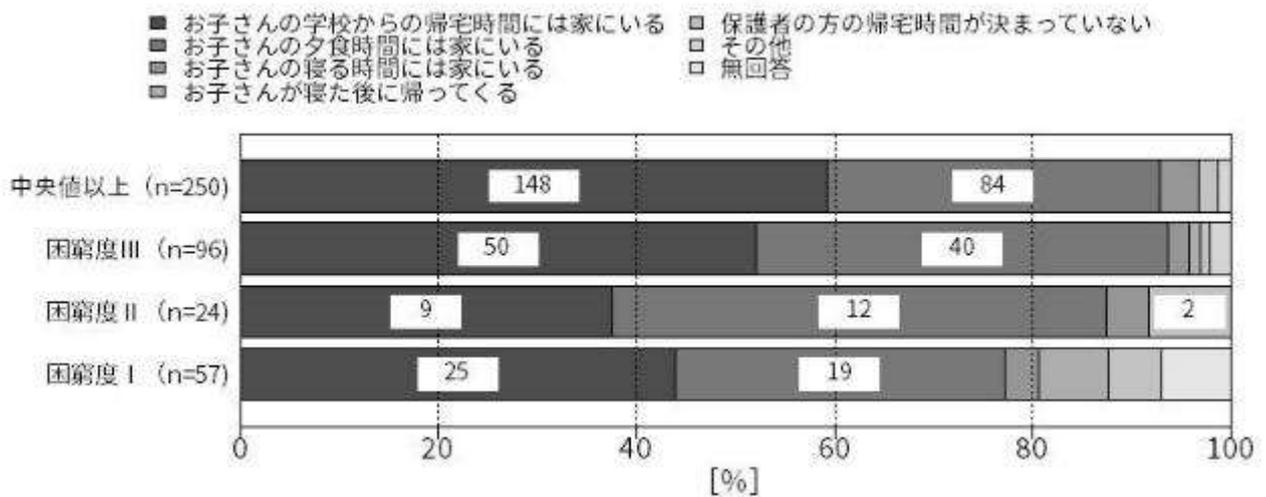
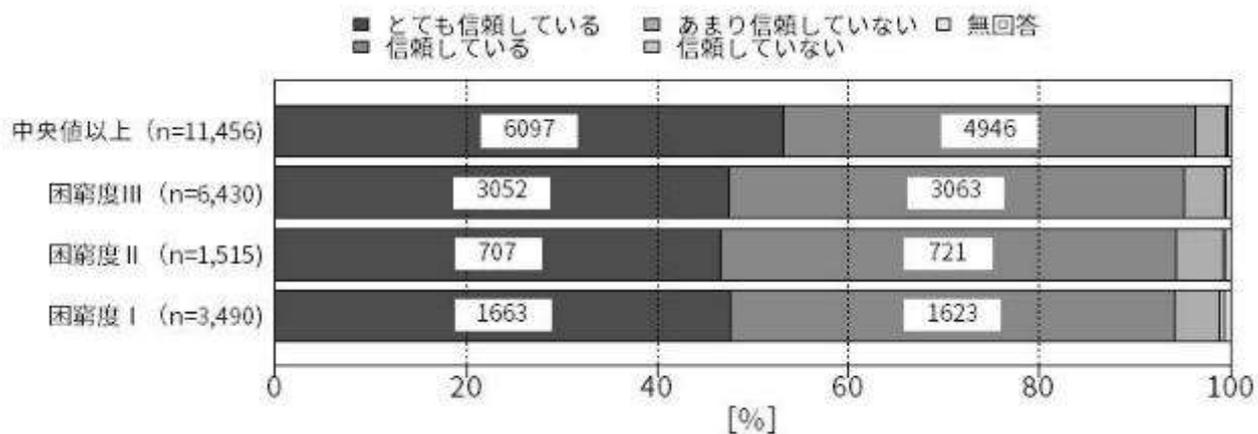


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い傾向にあった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

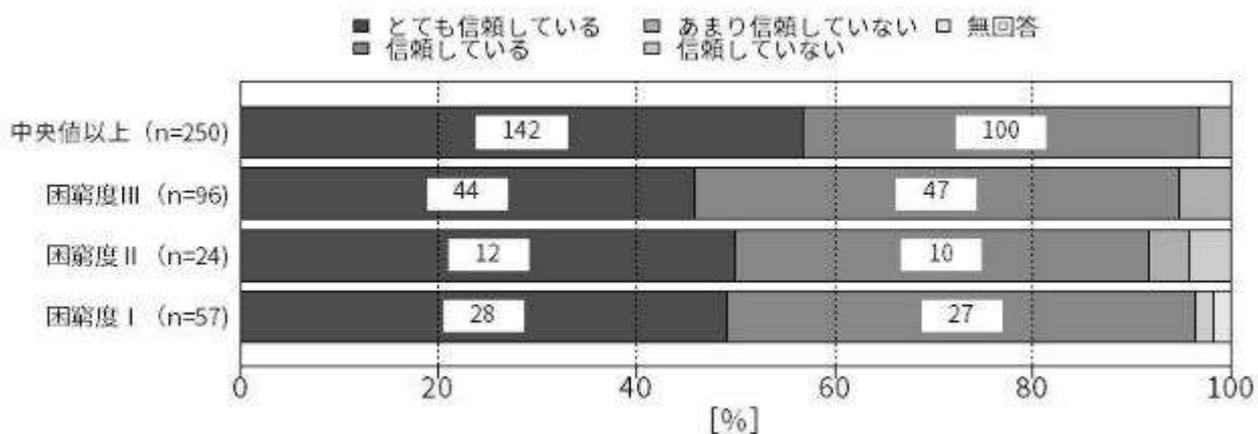
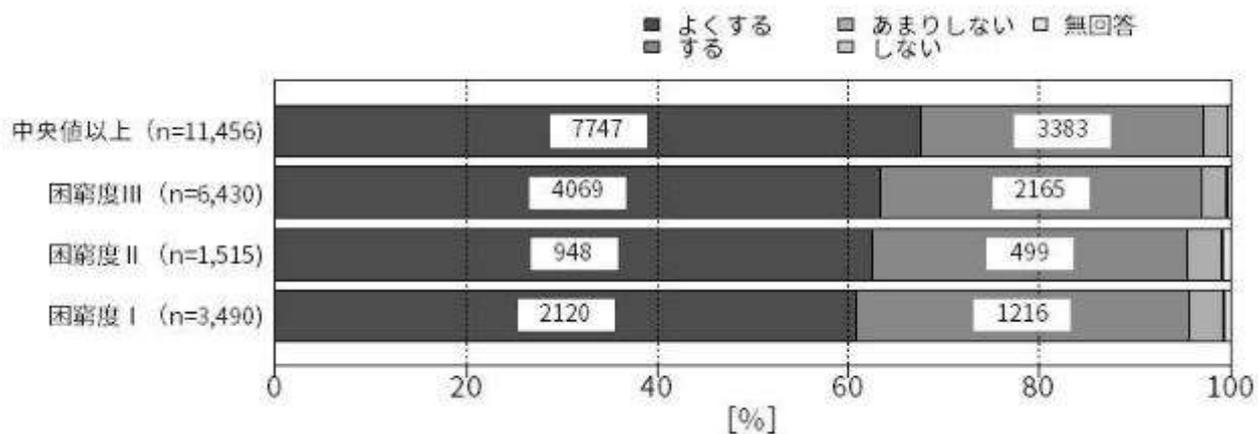


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 56.8%、困窮度Ⅰ群では 49.1%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

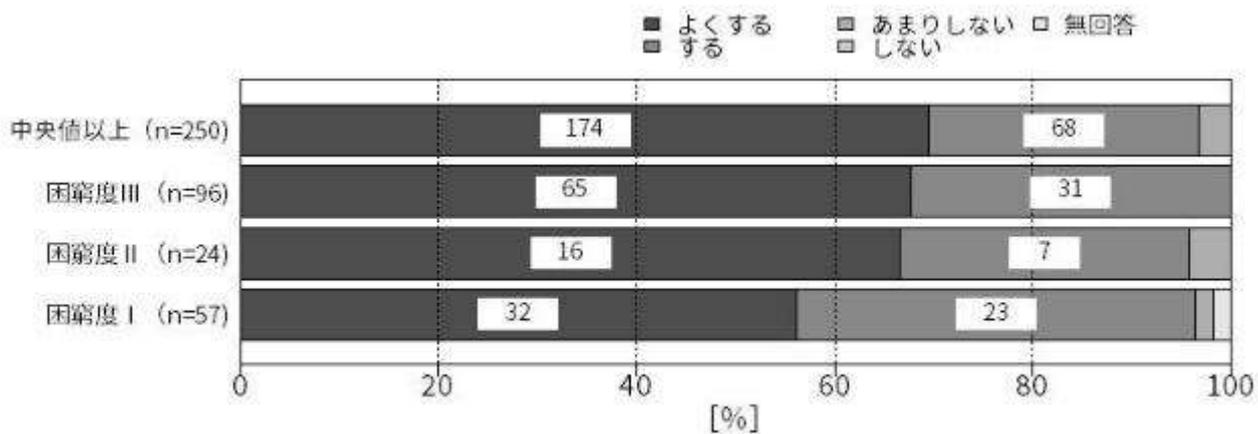
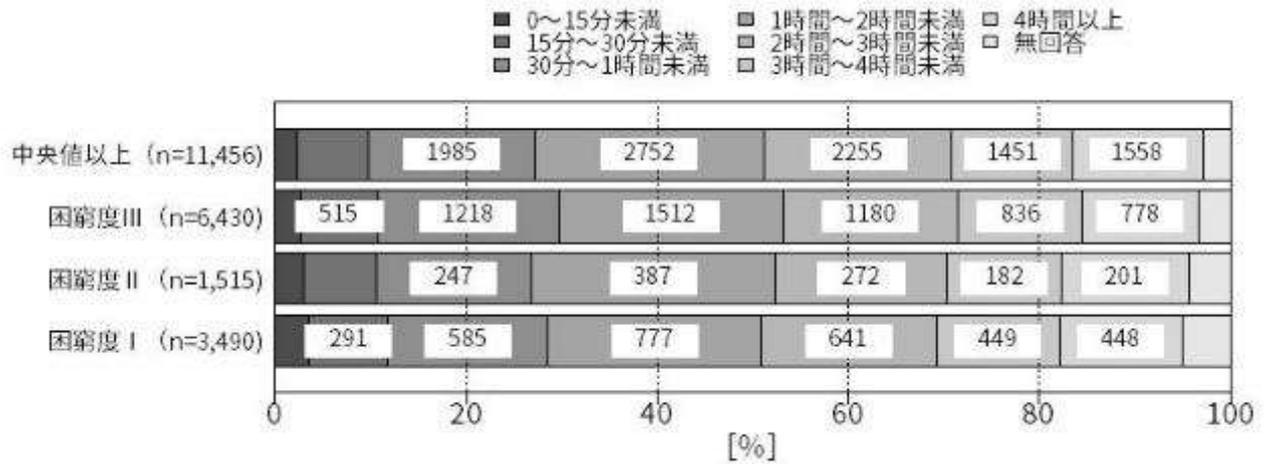


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 69.6%、困窮度Ⅰ群では 56.1%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））  
 （保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

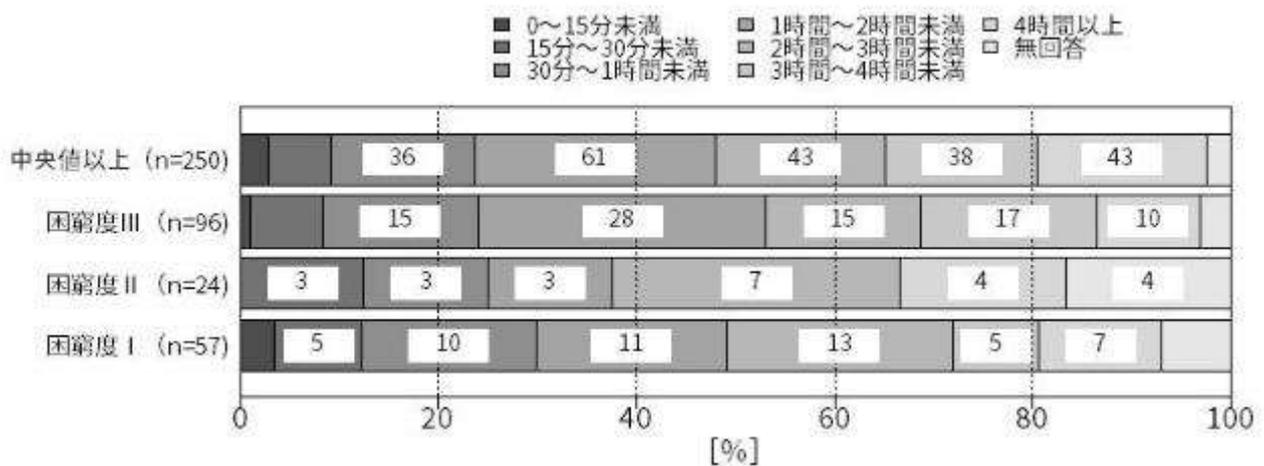
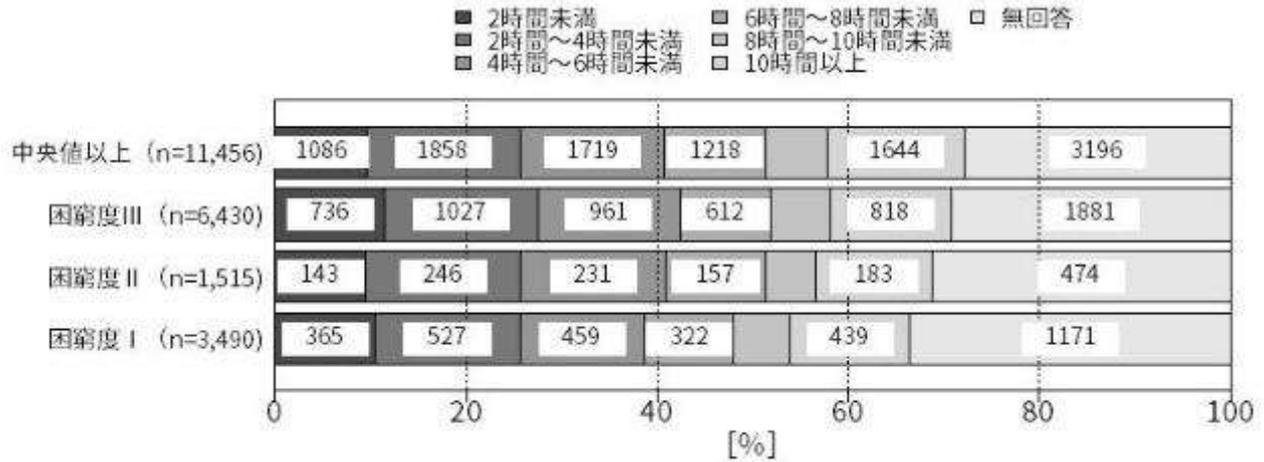


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、「4 時間以上」と回答した割合は中央値以上群で 17.2%、困窮度Ⅲ群で 10.4%、困窮度Ⅱ群で 16.7%、困窮度Ⅰ群で 12.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））  
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

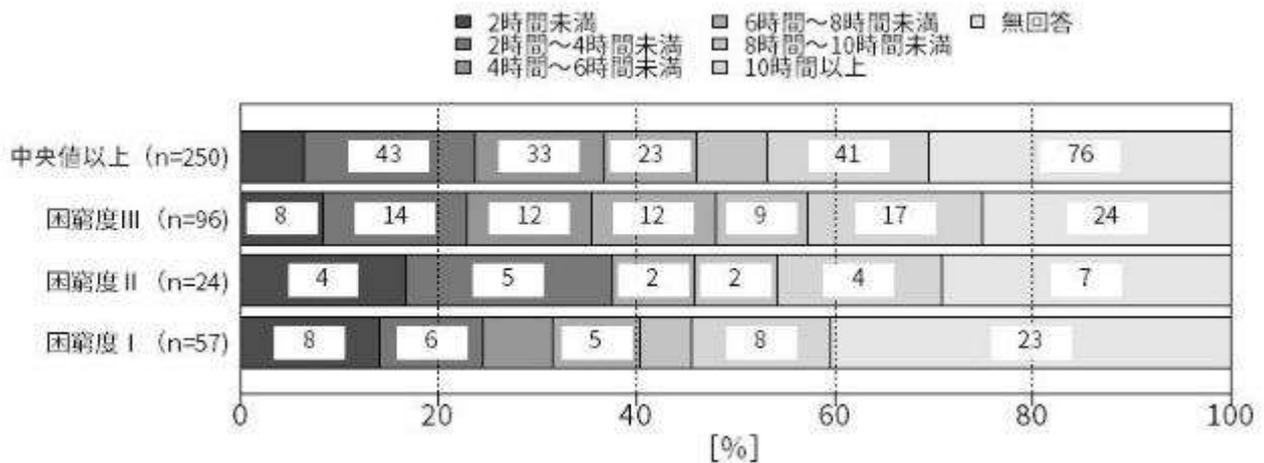
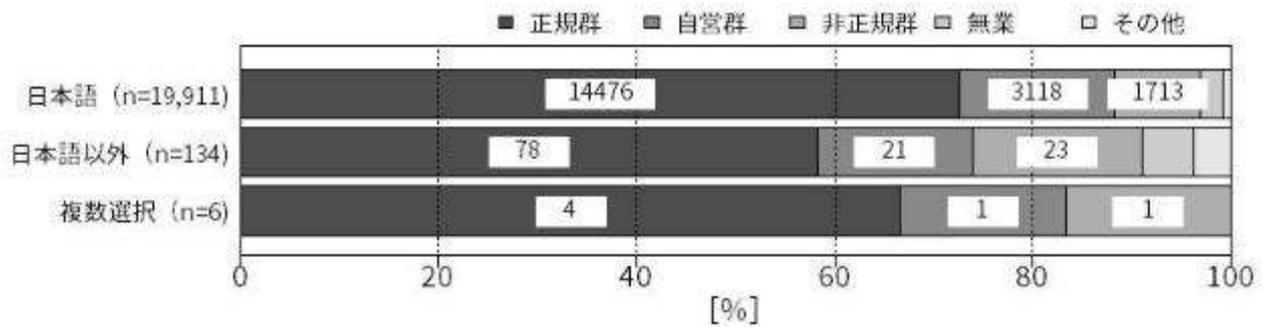


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「10時間以上」と回答した割合は中央値以上群で16.4%、困窮度Ⅲ群で17.7%、困窮度Ⅱ群で16.7%、困窮度Ⅰ群で14.0%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況  
 (保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

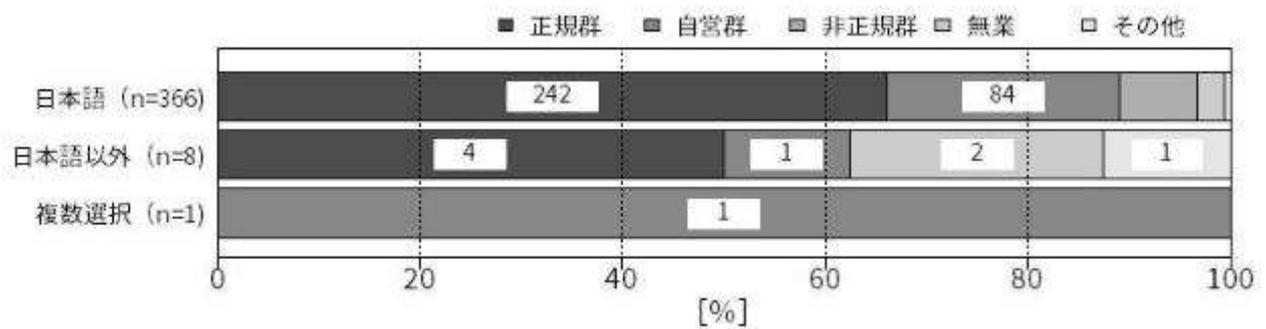
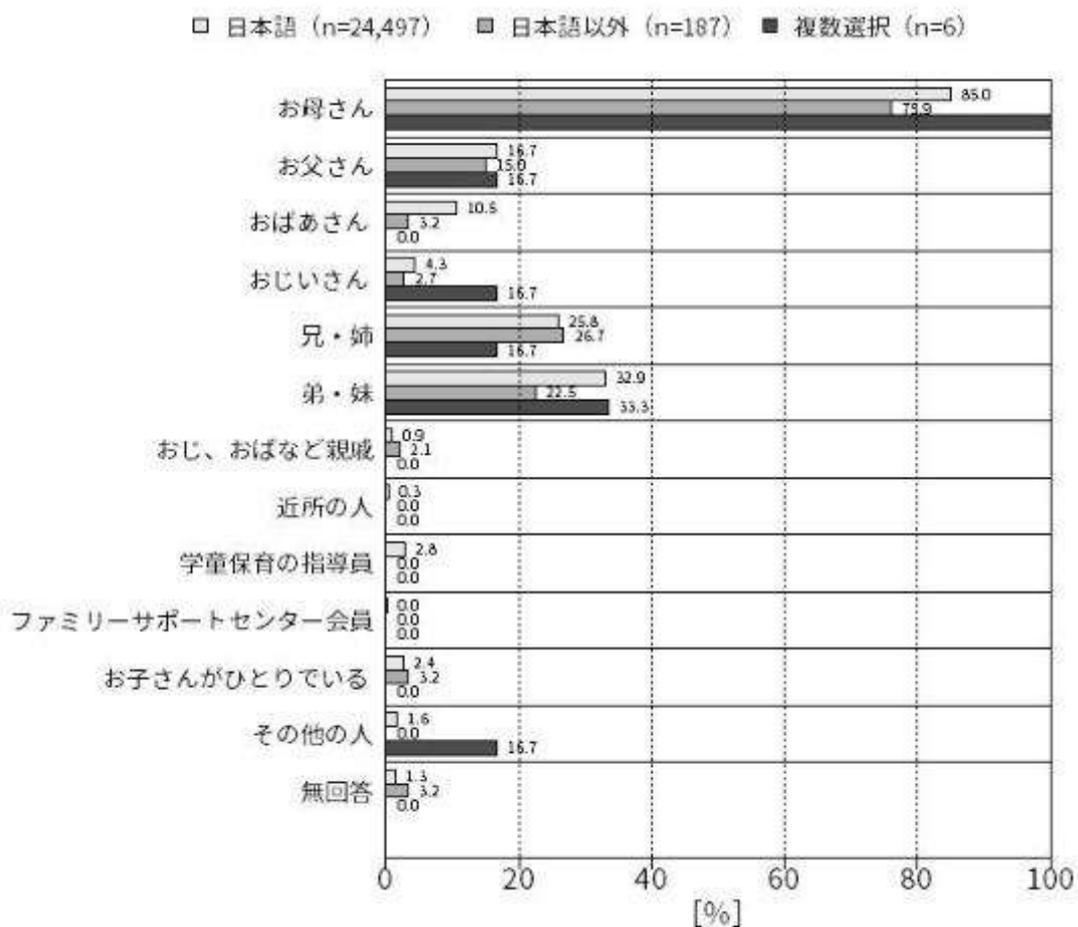


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語を母語としない回答者は8人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に就労状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、非正規群が7.7%、無業が2.7%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

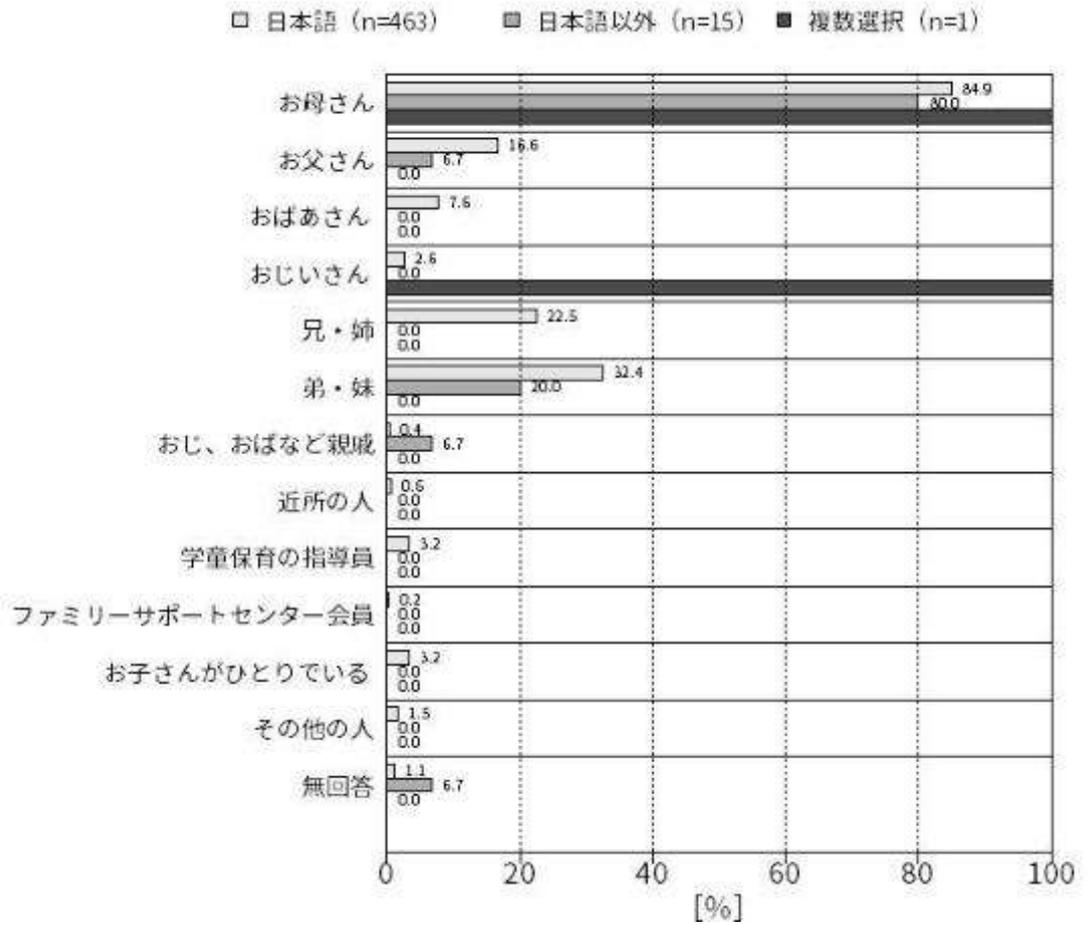
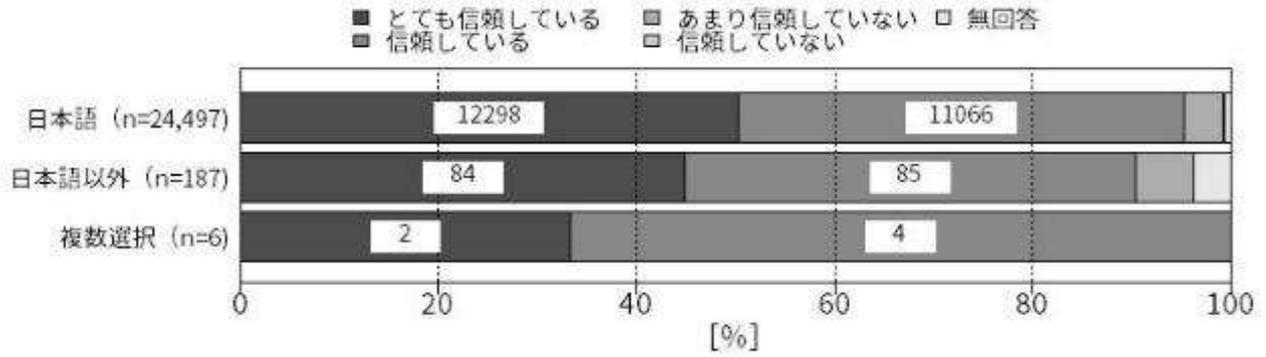


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語以外と回答した人数が 15 名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり  
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

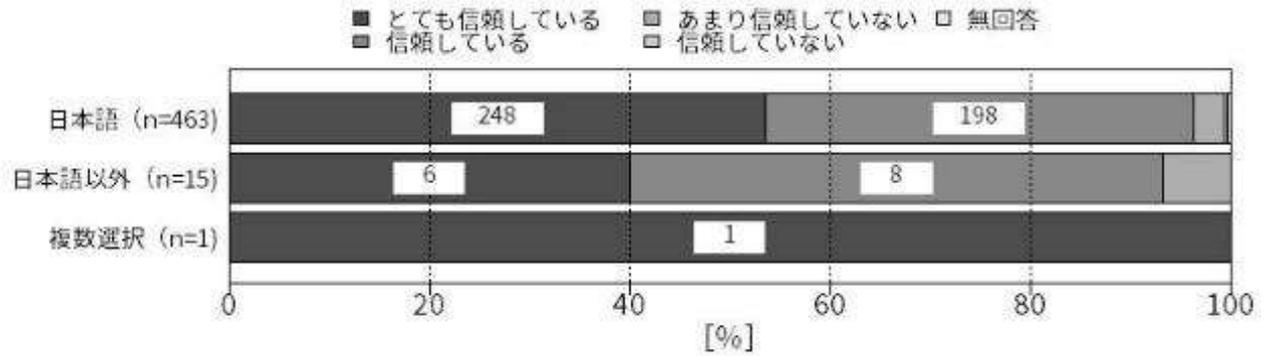
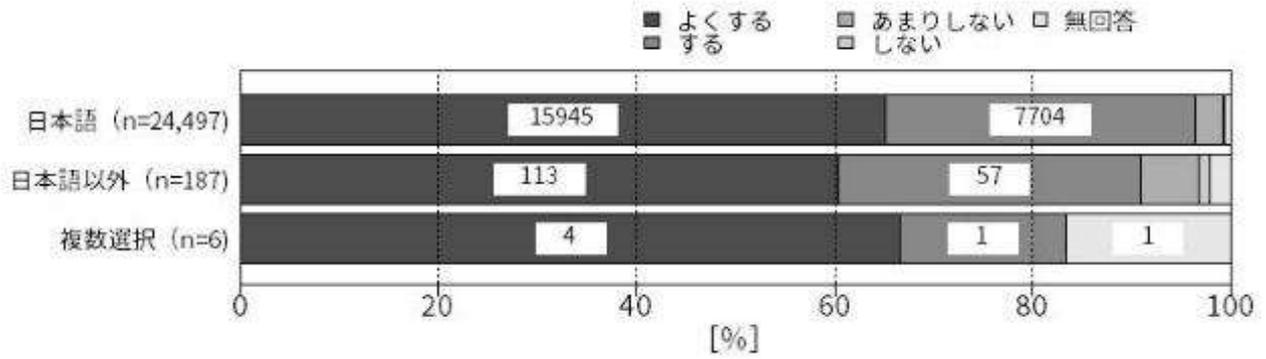


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

日本語を母語としない回答者は 15 人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり  
 (子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

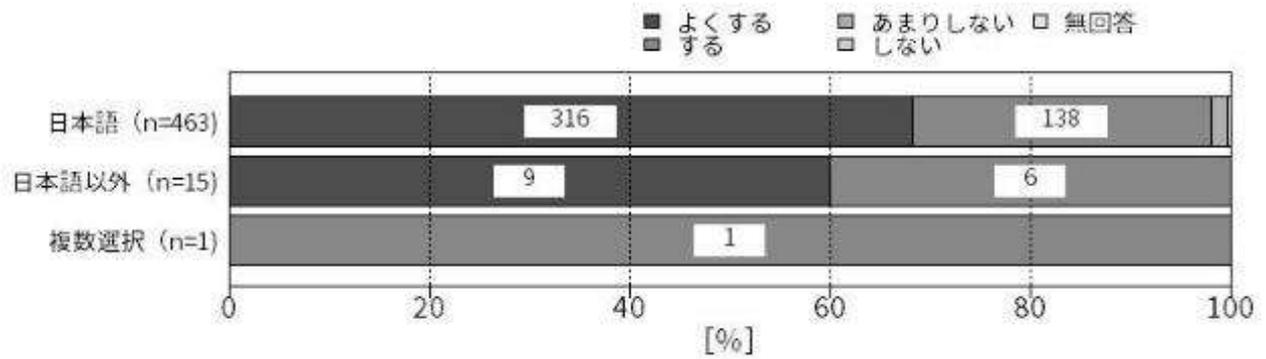


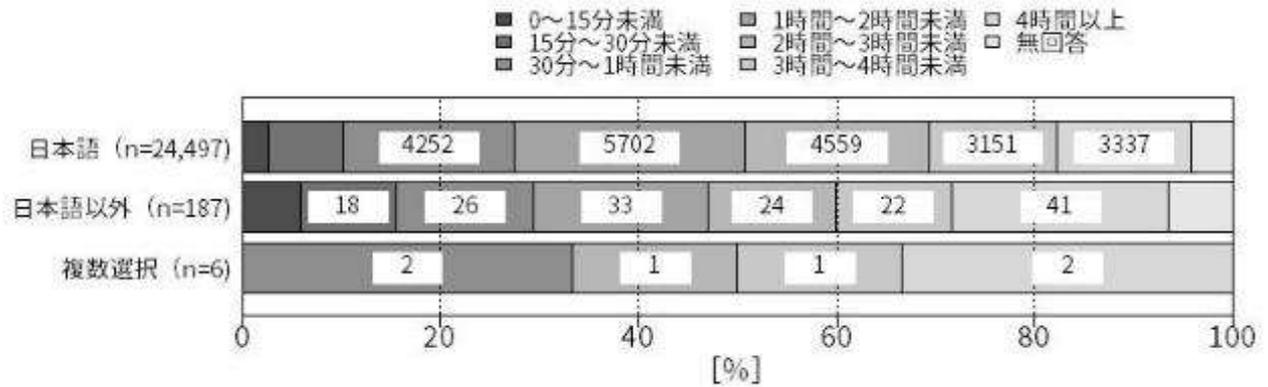
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

日本語を母語としない回答者は 15 人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

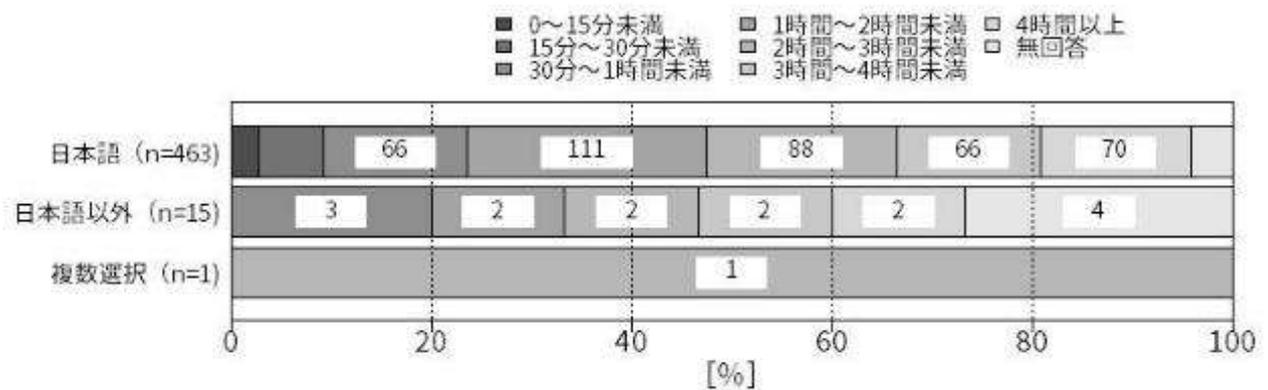


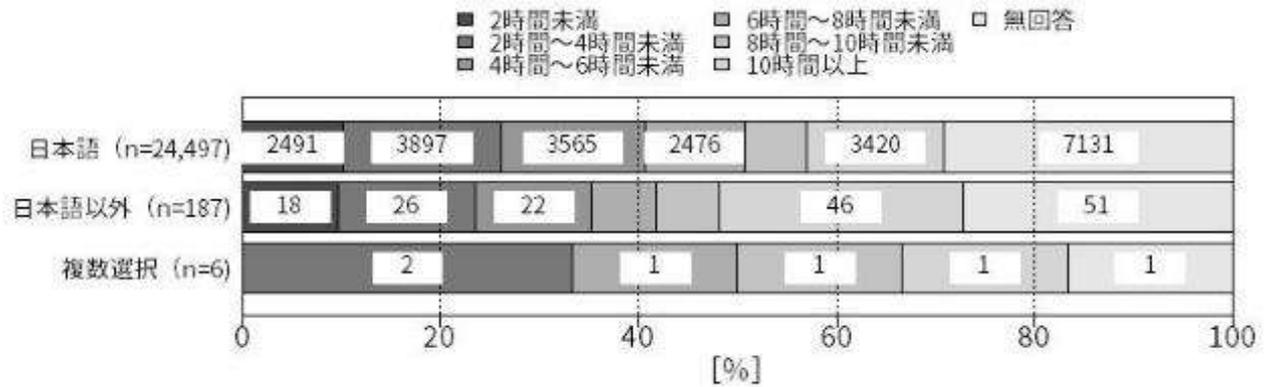
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり  
(子どもと一緒にいる時間(平日))

日本語を母語としない回答者は15人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間 (休日)) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

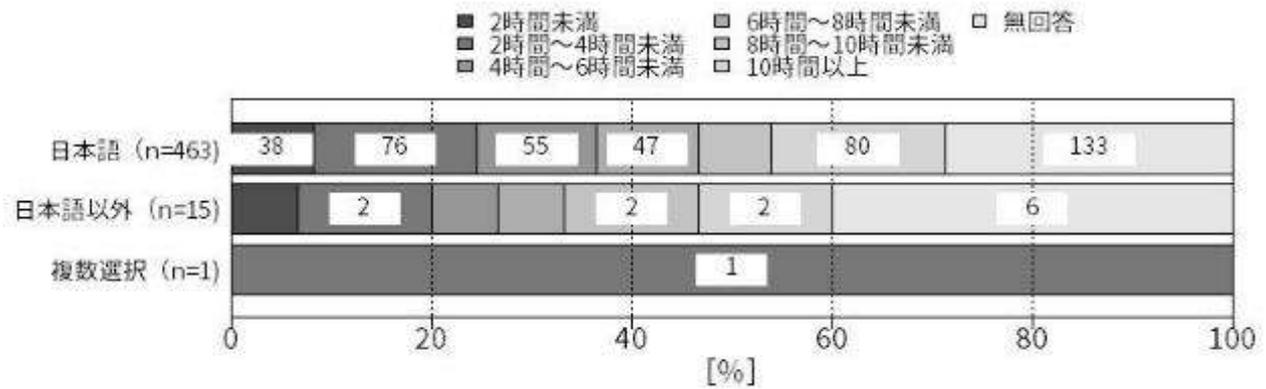
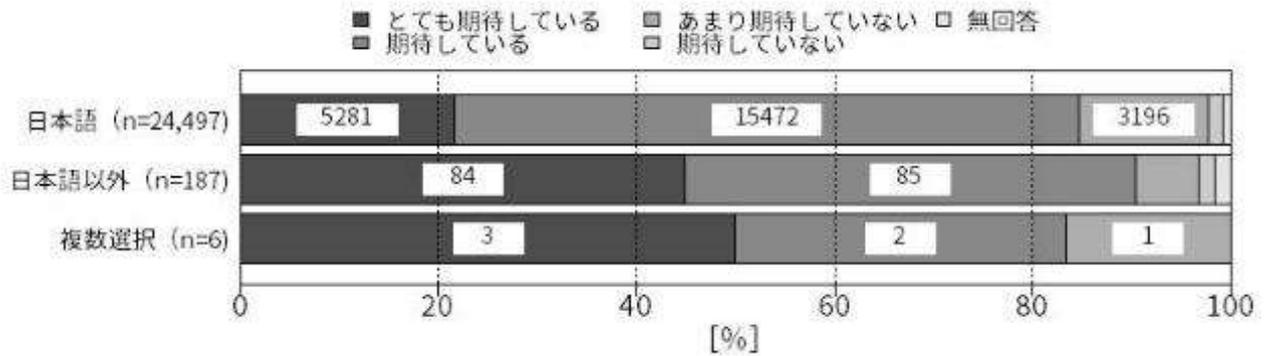


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり  
(子どもと一緒にいる時間 (休日))

日本語を母語としない回答者は15人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （保護者票 問2 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

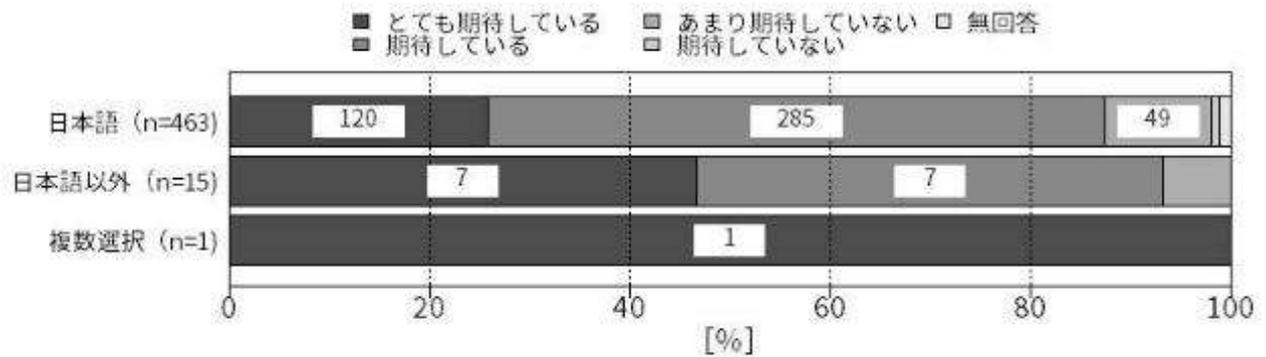
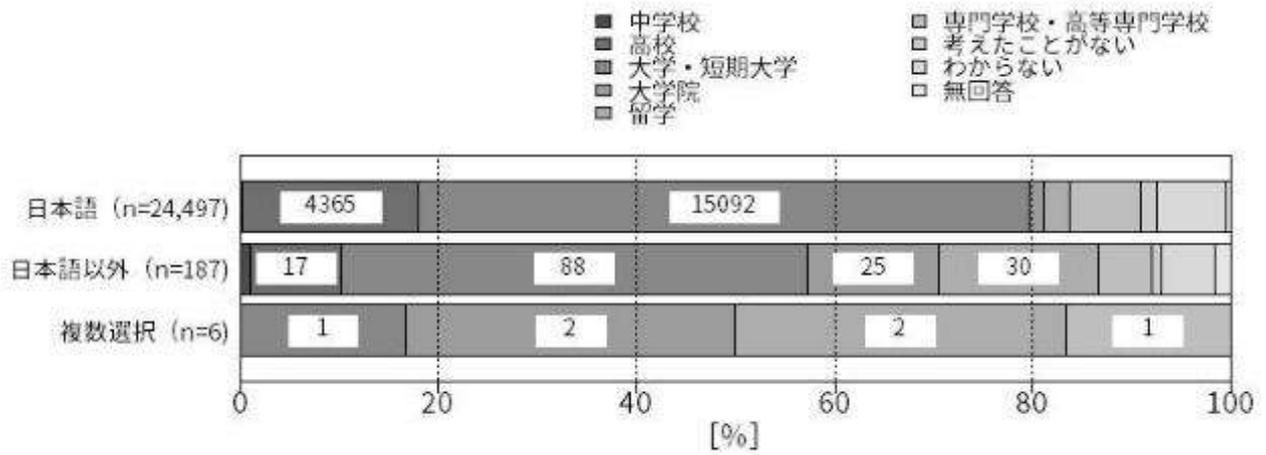


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり  
 (子どもへの将来の期待)

日本語を母語としない回答者は15人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先（保護者票 問2 × 保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

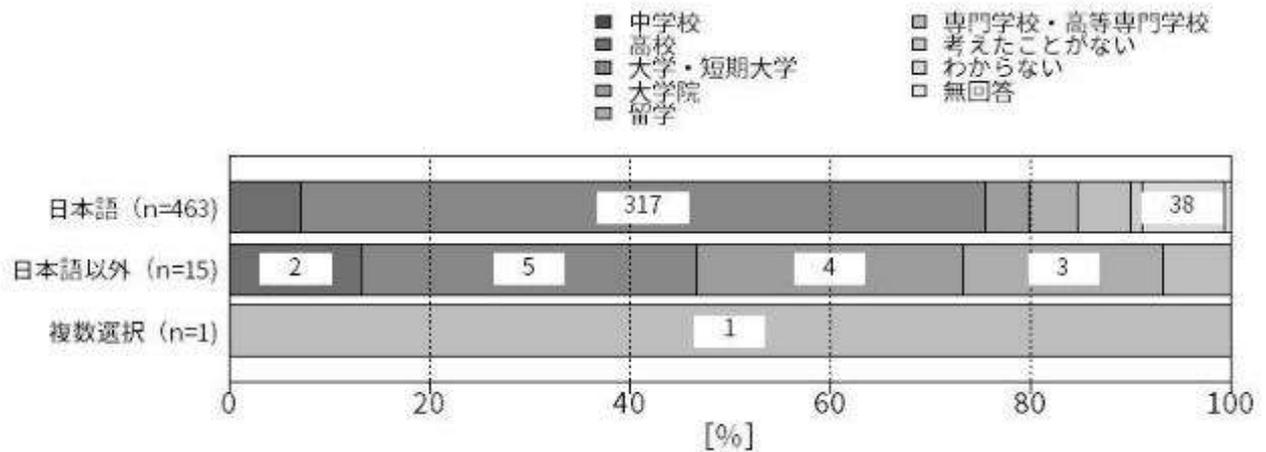


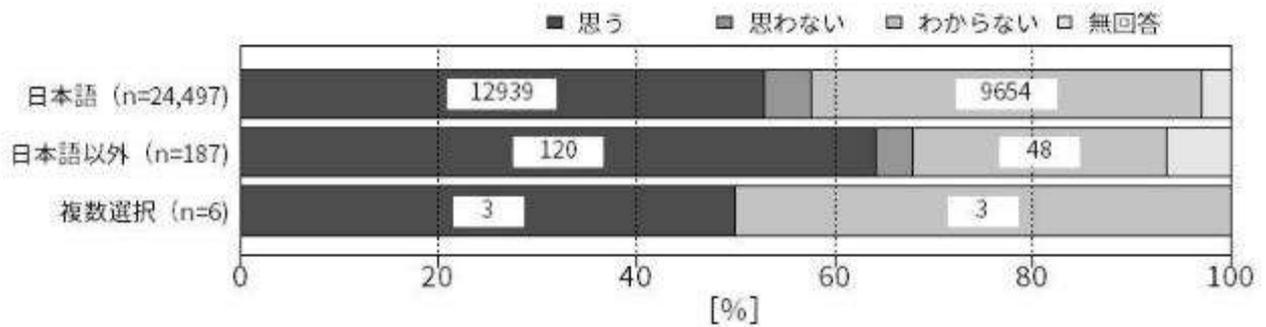
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない回答者は 15 人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

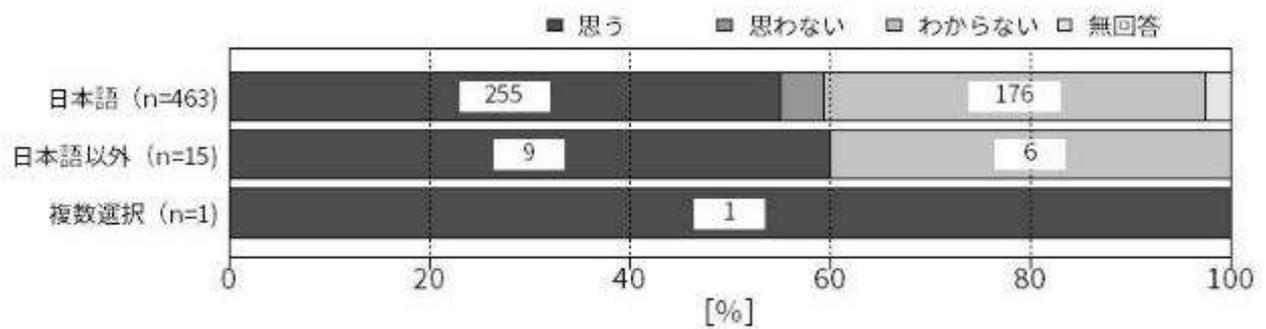
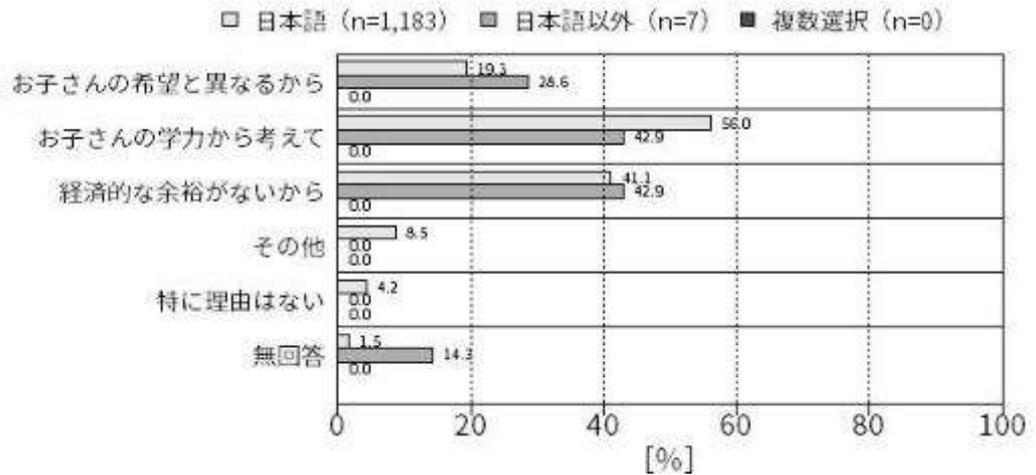


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない回答者は15人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

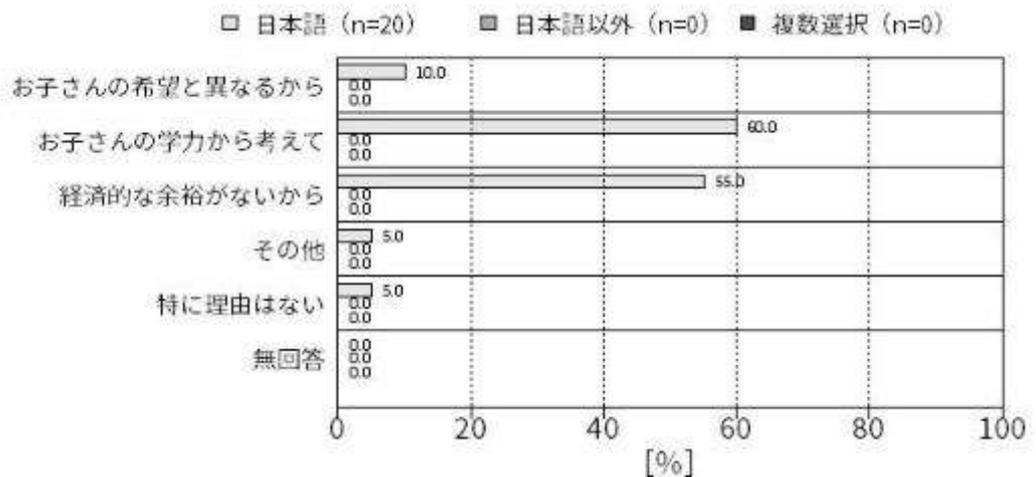
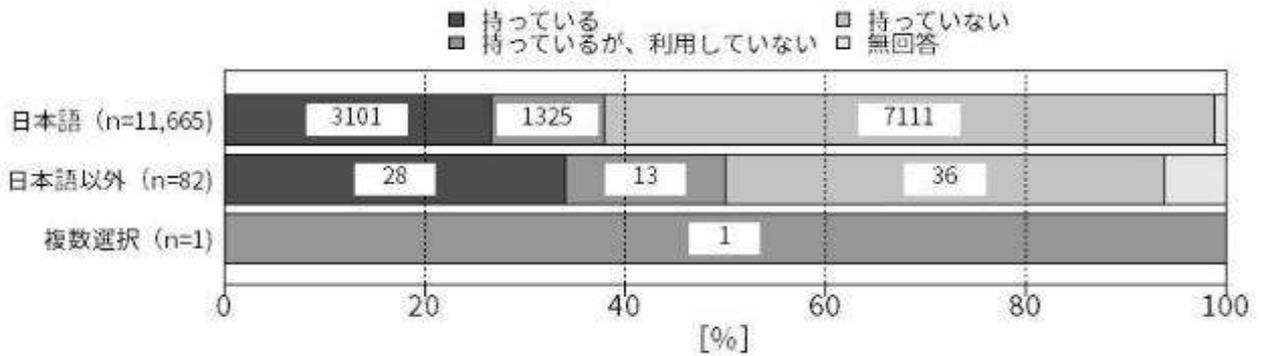


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない回答者はおらず、日常生活でよく使う言葉別に子どもの進学達成「思わない」理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと思わないと回答した理由として、「お子さんの学力から考えて」が60.0%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

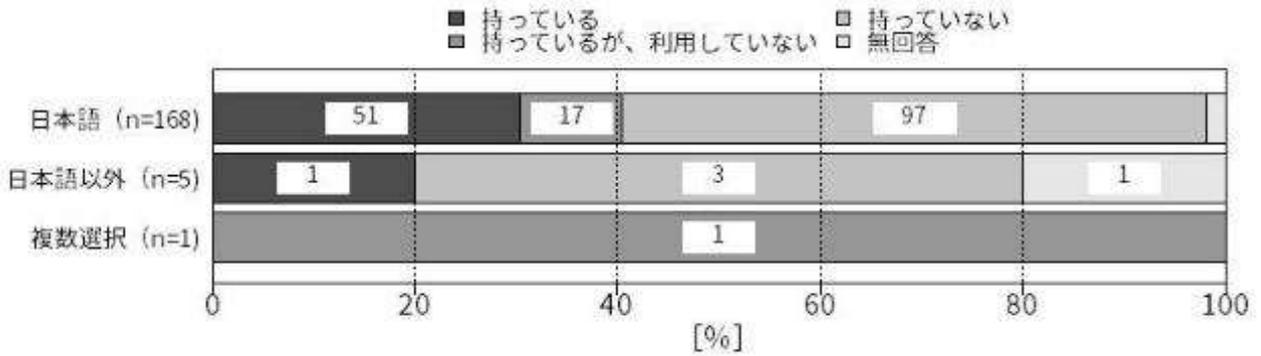
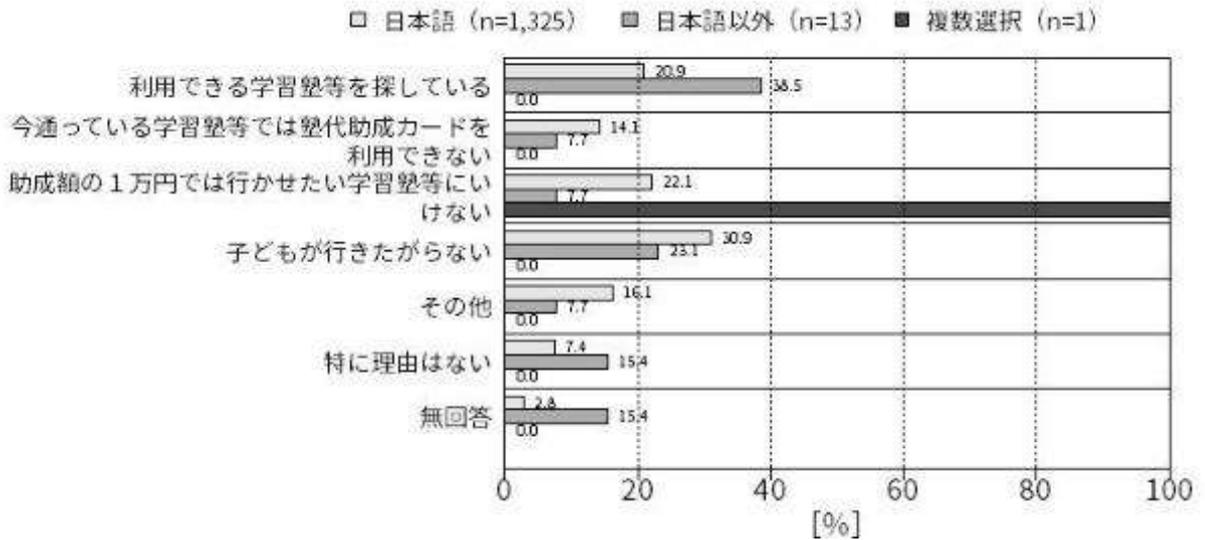


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない回答者は5人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードの所持状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを「持っている」と回答した割合が30.4%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

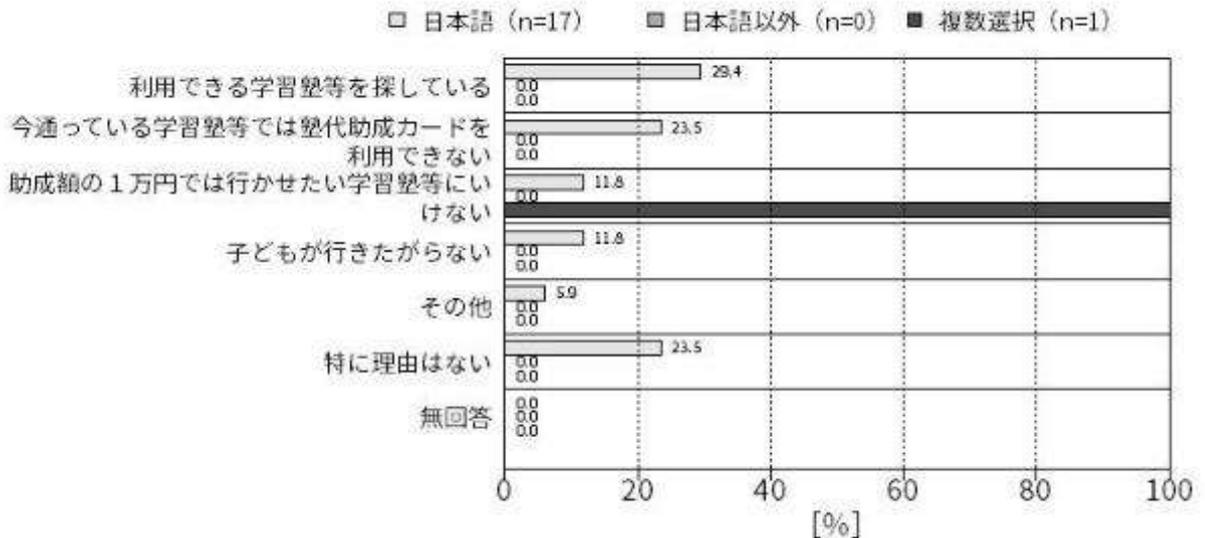


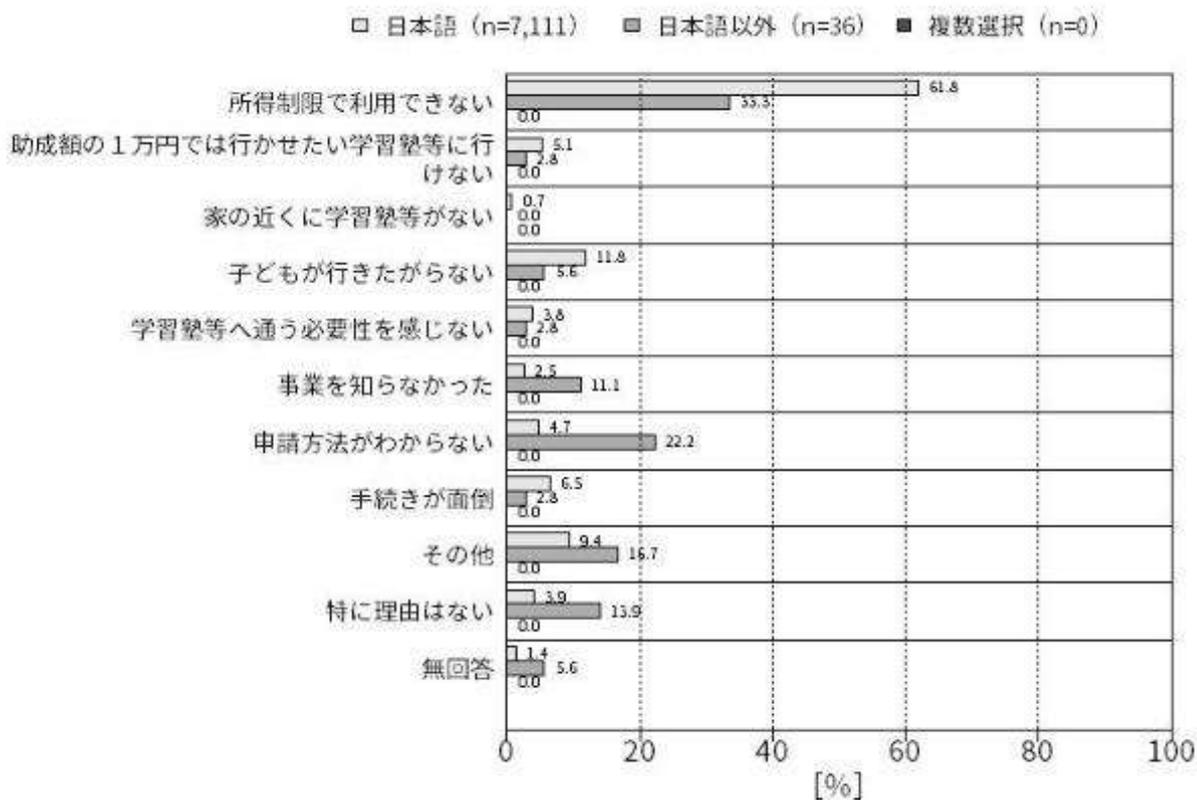
図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない回答者はおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードを持っているが利用していない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っているが利用していない理由として、「利用できる学習塾等を探している」が29.4%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

(保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

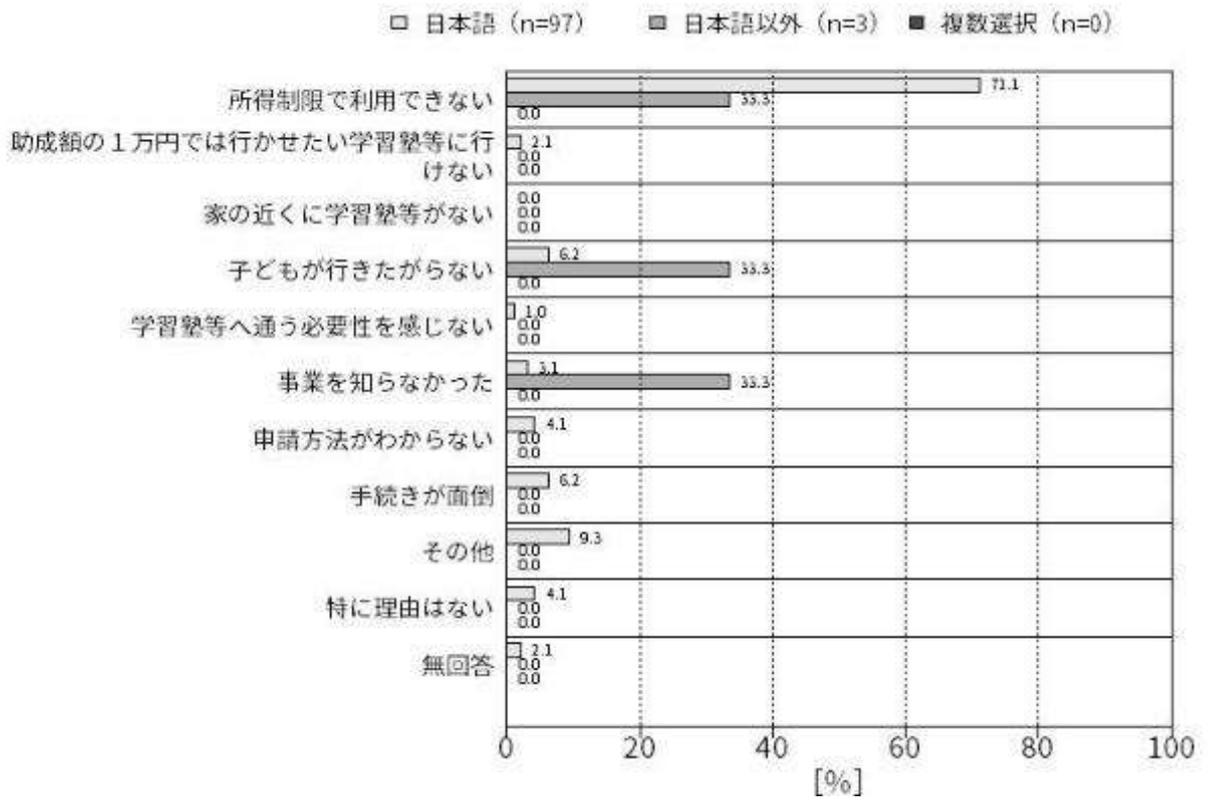


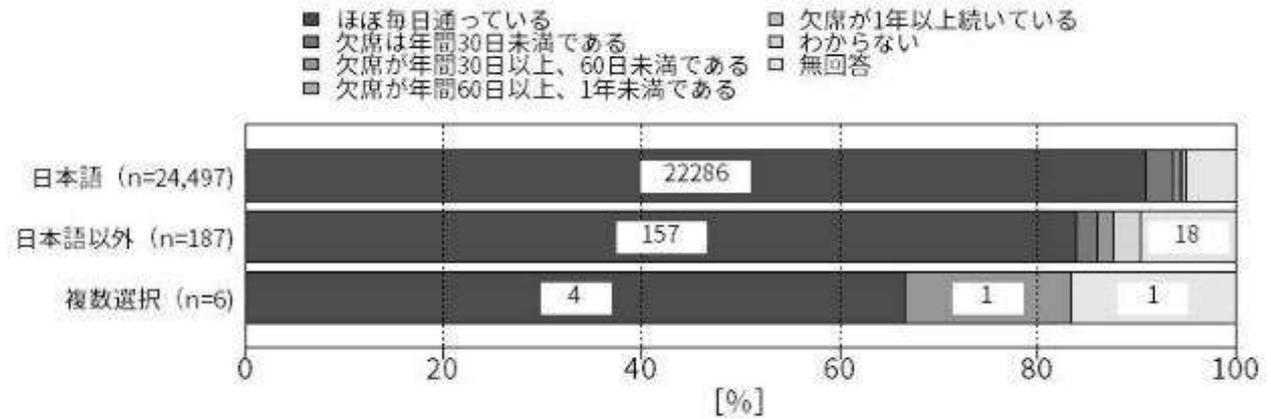
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない回答者は3人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードを持っていない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っていない理由として、「所得制限で利用できない」が33.3%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

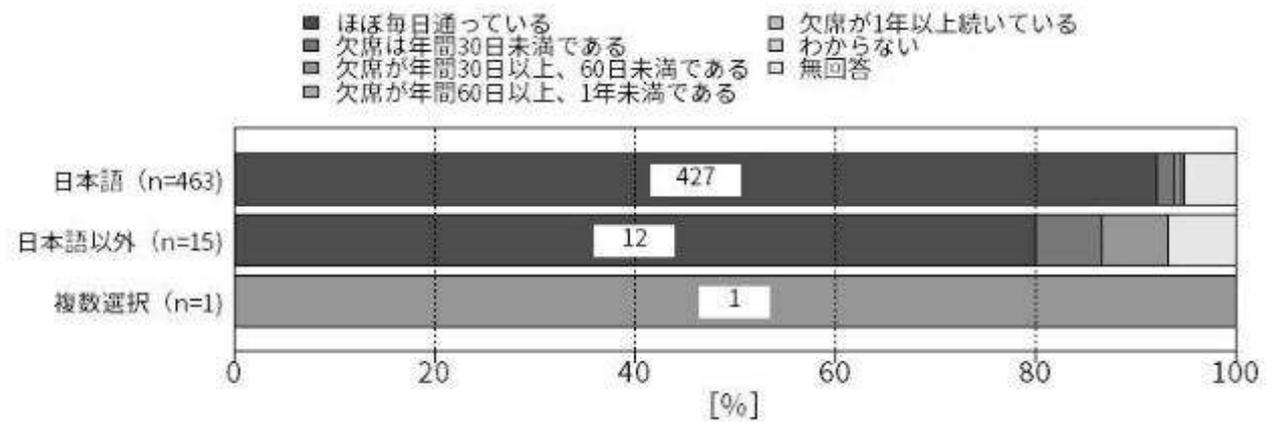


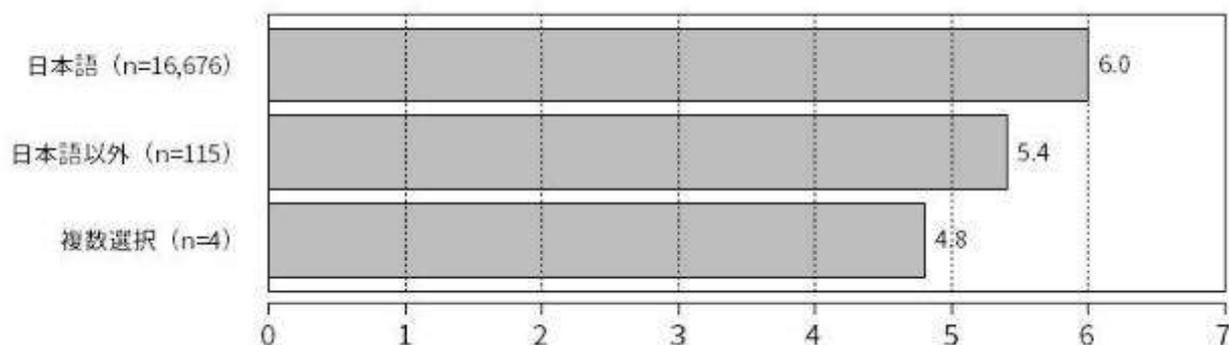
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない回答者は 15 人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問23①~⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

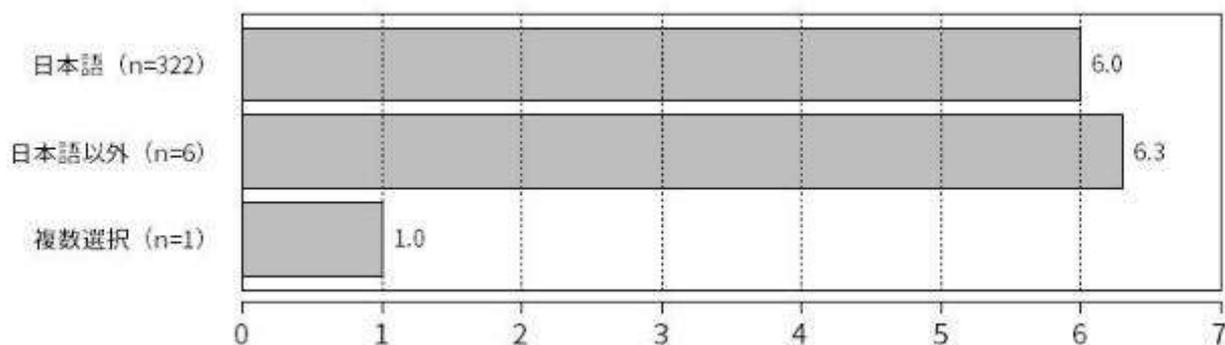


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

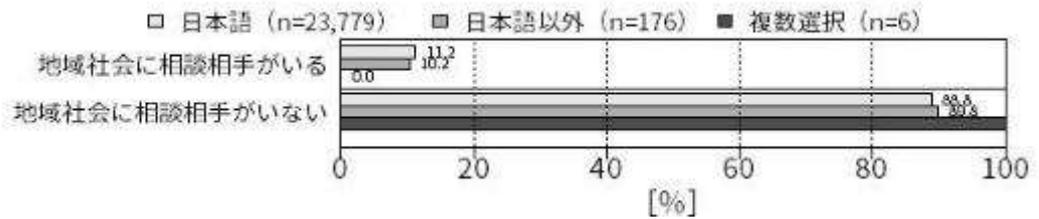
日本語を母語としない回答者は6人しかおらず、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市中央区>

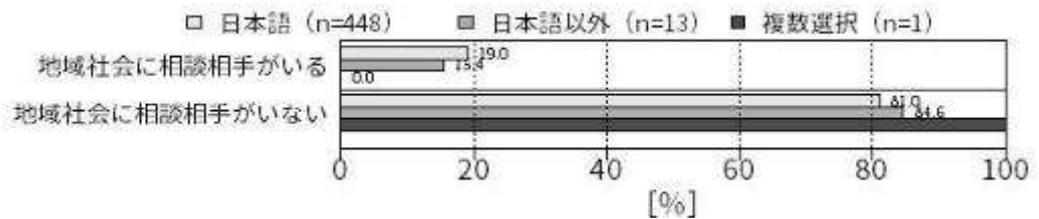


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない回答者は13人しかおらず、傾向を述べることはできない。

## <家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったくくない」「ほとんどない」合わせると34.0%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度は下がり、前者の宿題を見てもらわない子どもが26.8%（大阪市全体35.9%）、後者の文化活動を行わない子どもはまったくくないが41.1%（大阪市全体40.0%）、ほとんどないと合わせると62.5%（大阪市全体：78.1%）を占め、中央値以上と7ポイントほどの差がある（大阪市全体も同様）。

勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、30分以内と少なくなり、読書時間も同様の傾向で、困窮度Ⅰ群では全くしない人は21.4%（大阪市全体：37.6%）を占める。これらの結果として学習理解度は、困窮度Ⅰ群では、あまりわからない・ほとんどわからない人が8.9%（大阪市全体：23.4%）になる。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくくない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

子どもの将来に関して、期待していないと回答したのは極めて少なく、保護者の進学希望に「中学」はなかった。しかし、子どもの方は自身の進学に「中学」を数名挙げている。困窮度Ⅰ群では、「中学」「高校」合わせて、子どもはその値が17.9%（大阪市全体：25.4%）、保護者が17.5%（大阪市全体：33.5%）となる。希望の進路にならない理由に経済的理由については数が少なすぎて言及できないと判断する（大阪市全体：64.8%）。

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、28.5%（大阪市全体：18.4%）である。困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度Ⅰ群では「ほぼ毎日通っている」が89.5%（大阪市全体：88.1%）、週1回以上遅刻する子どもは、遅刻をしない子どもと比べて、おうちの大人と朝食をほとんど毎日とっているのが43.4%（大阪市全体：39.7%）、夕食で74.7%（大阪市全体：75.2%）、学校でのできごとについて話すこと、社会のできごとを話すこと、文化活動をする、などが低くなっている。

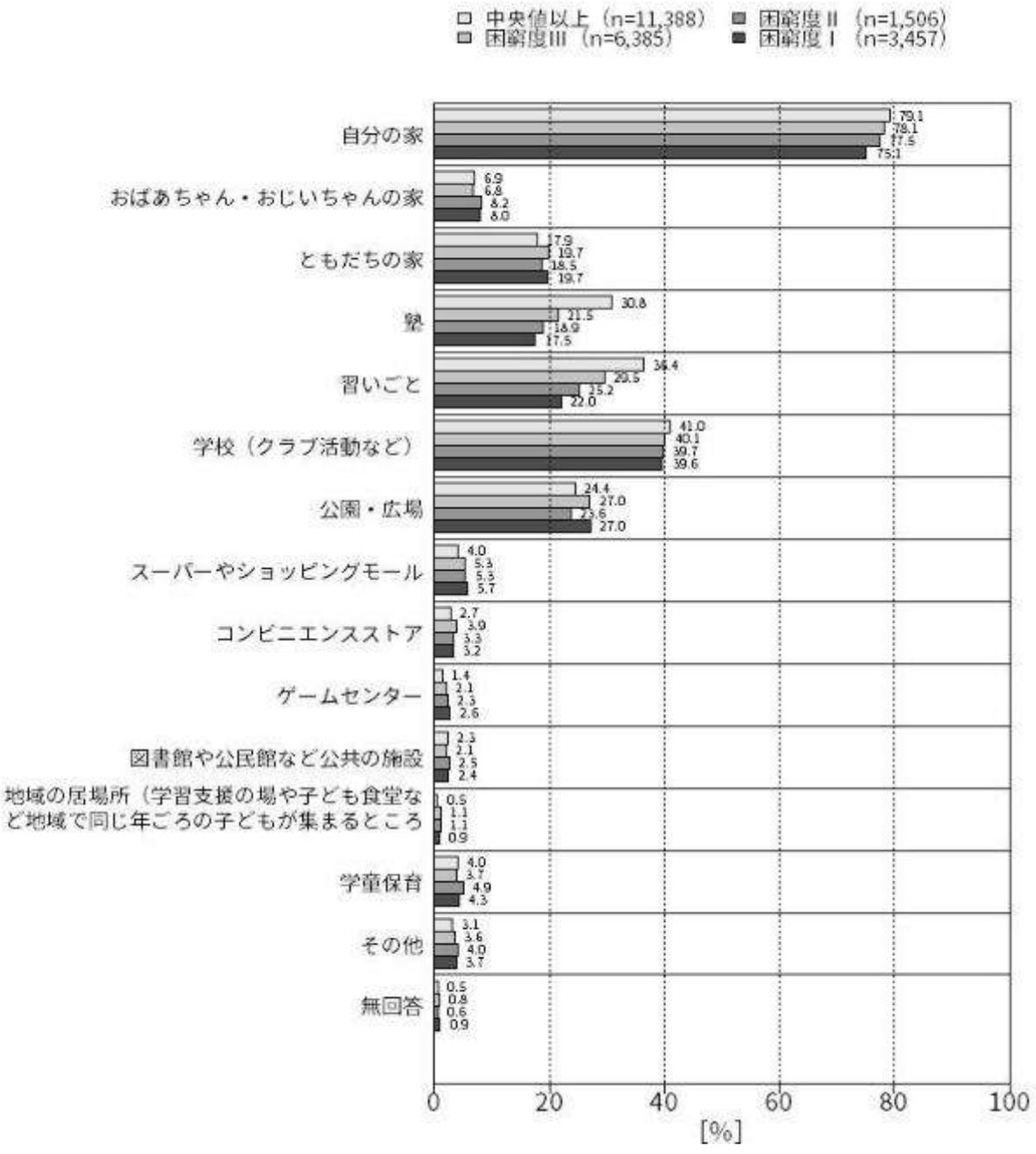
週1回以上遅刻する子どもは進学希望が「中学校」「高校」の割合が高く16.8%（大阪市全体：22.3%）、遅刻はしない子どもは、「大学・短期大学」が38.9%（大阪市全体：39.8%）であった。

以上、本区は、大阪市全体と比べて、中央値以上と困窮度Ⅰ群との差はあるものの、大阪市全体と比較すると、勉強時間が高く学習理解度も高い。その結果も関連すると思われるが、保護者の期待していない割合が高くない。子どもの進路の希望と保護者の希望の不一致もほかでは高かったが、ほぼ見られないのが特徴といえよう。

### 3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



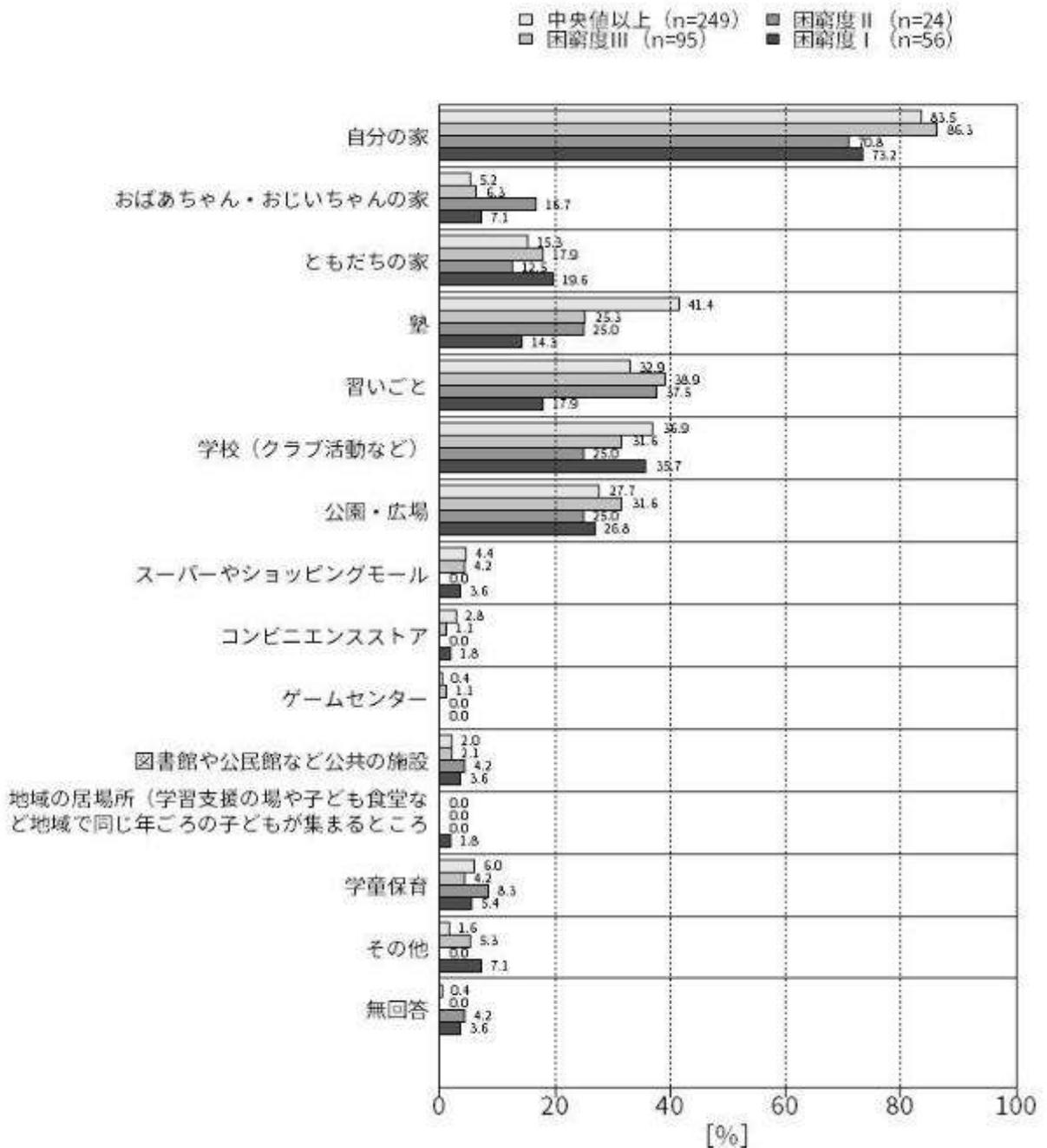
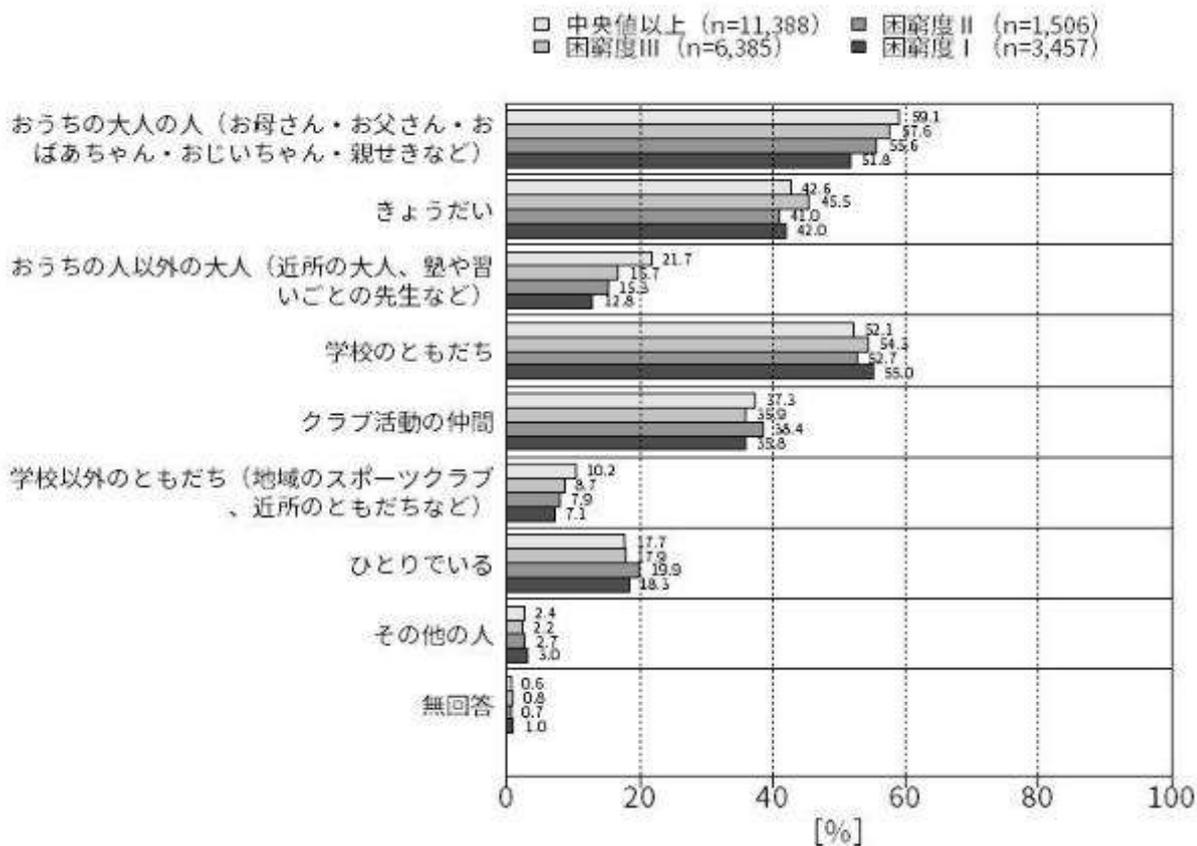


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度I群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度I群の数値を挙げると、「その他」7.1%（中央値以上群に対して、4.4倍）、「図書館や公民館など公共の施設」3.6%（1.8倍）となり、困窮度I群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」41.4%（困窮度I群に対して、2.9倍）、「習いごと」32.9%（1.8倍）、「コンビニエンスストア」2.8%（1.6倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



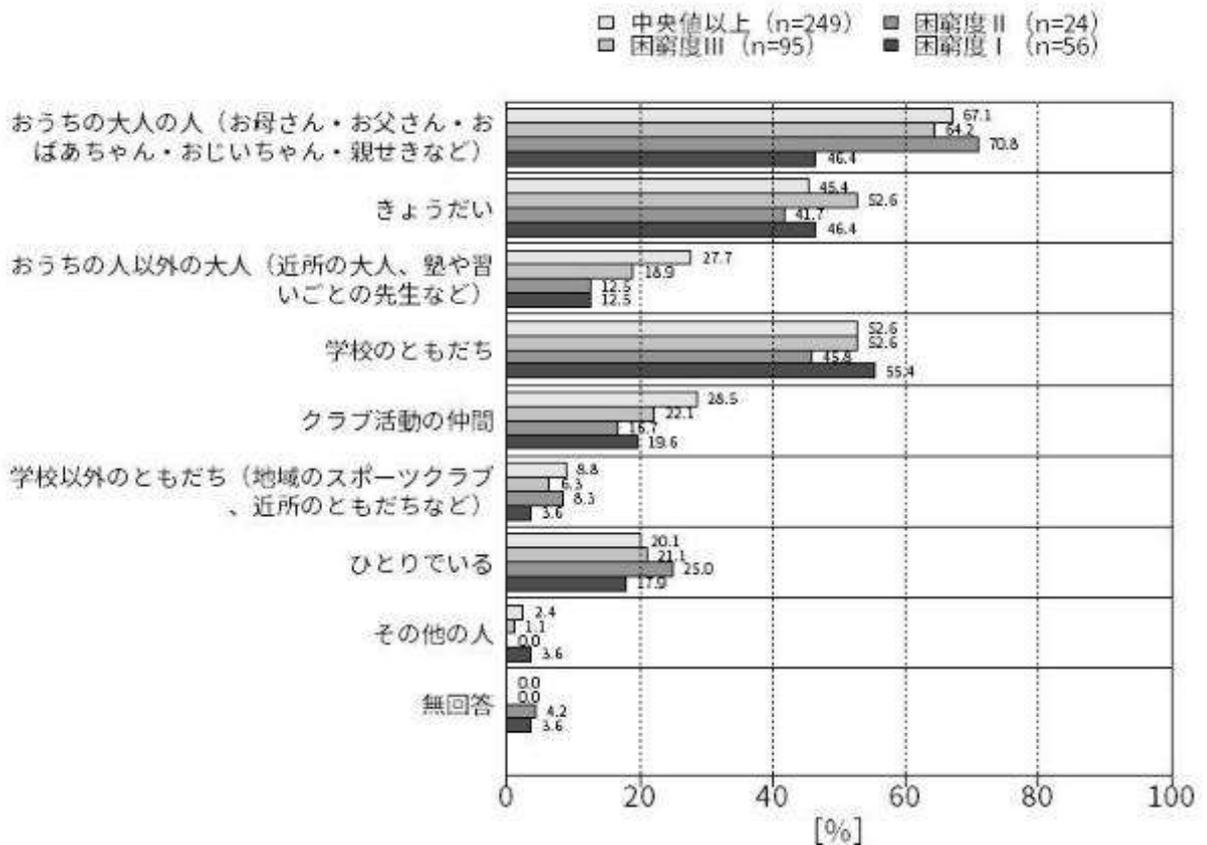
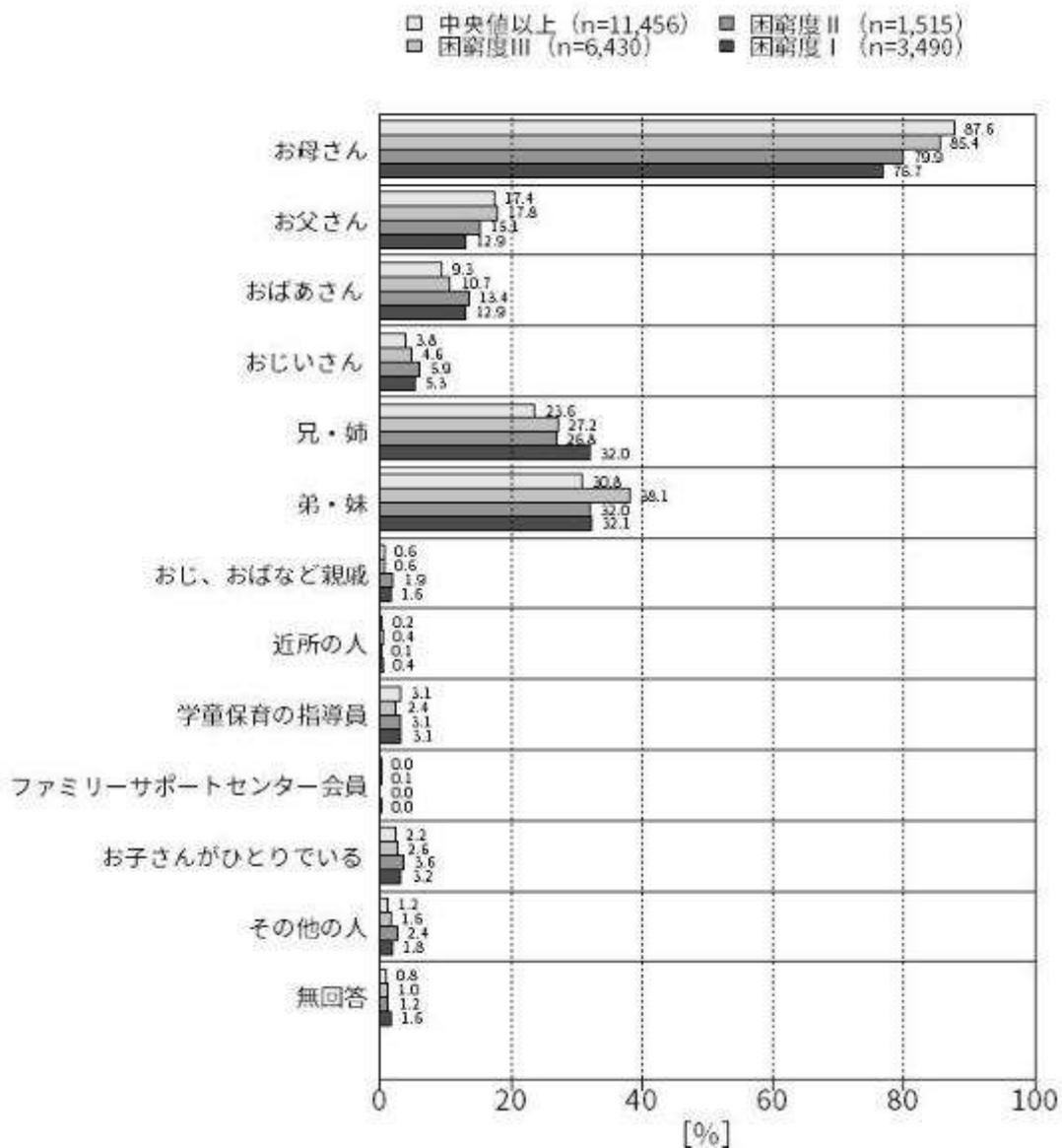


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他の人」3.6% (中央値以上群に対して、1.5 倍)、が高く、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」8.8% (困窮度 I 群に対して、2.4 倍)、「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」27.7% (2.2 倍)、「クラブ活動の仲間」28.5% (1.5 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



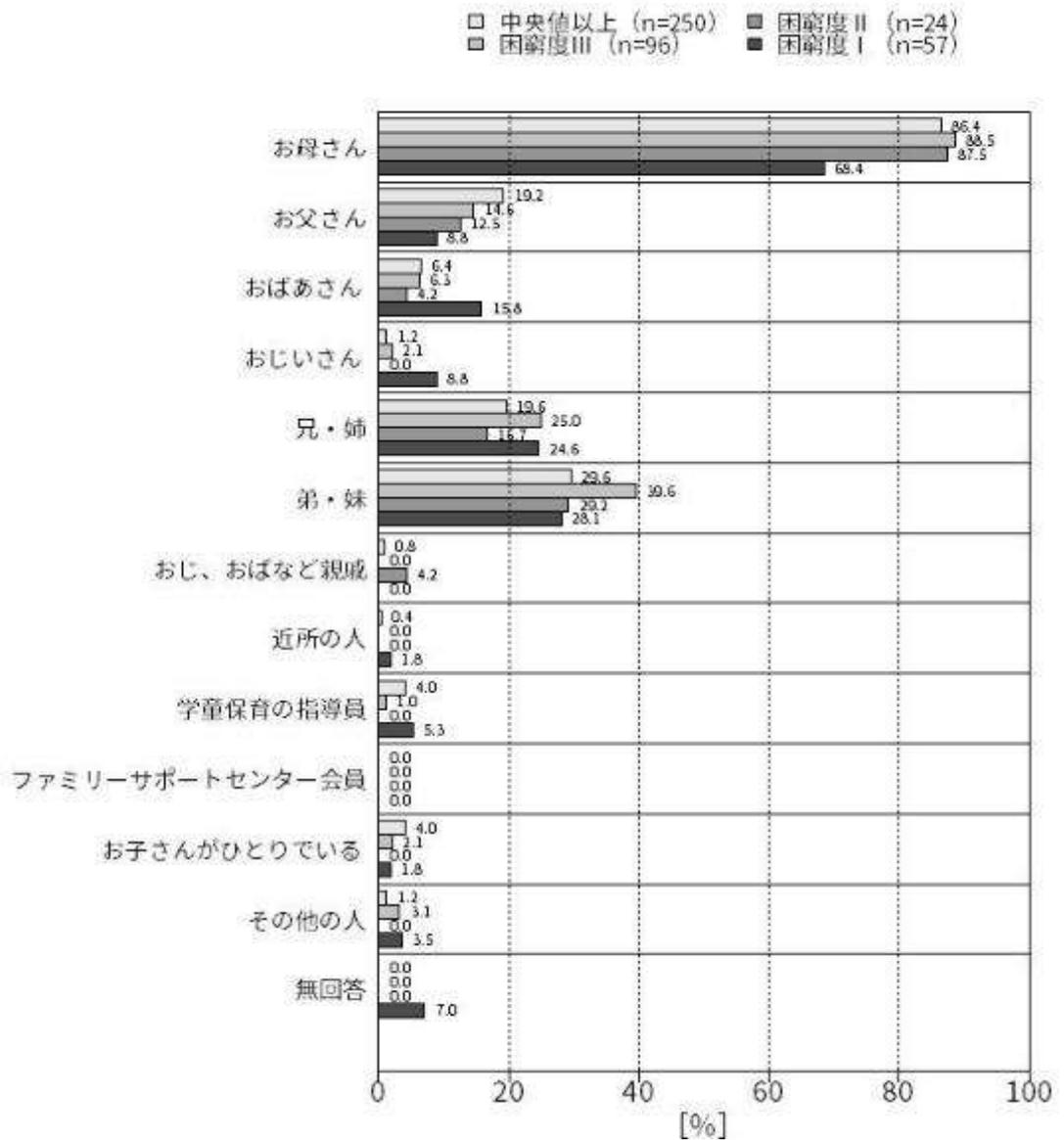
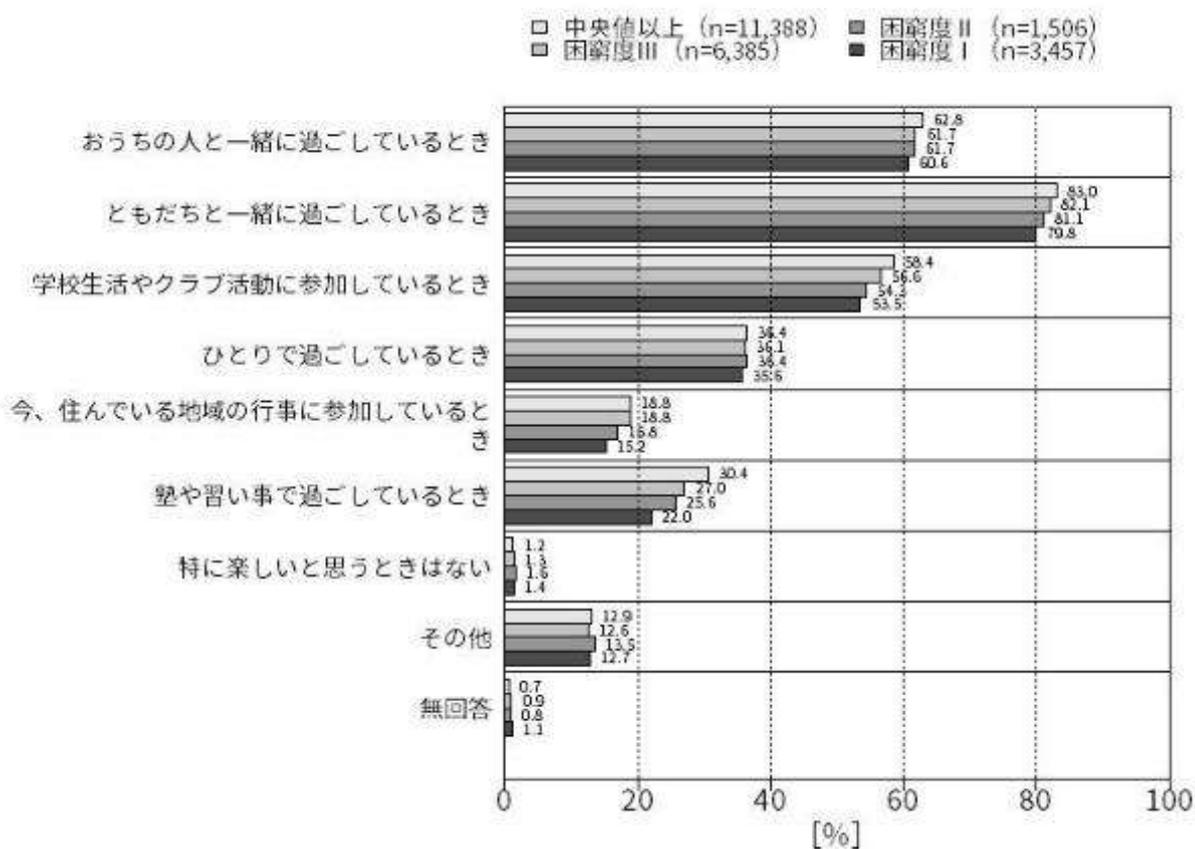


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「おじいさん」8.8%（中央値以上群に対して、7.3 倍）、「近所の人」1.8%（4.5 倍）、「その他の人」3.5%（2.9 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市中央区>

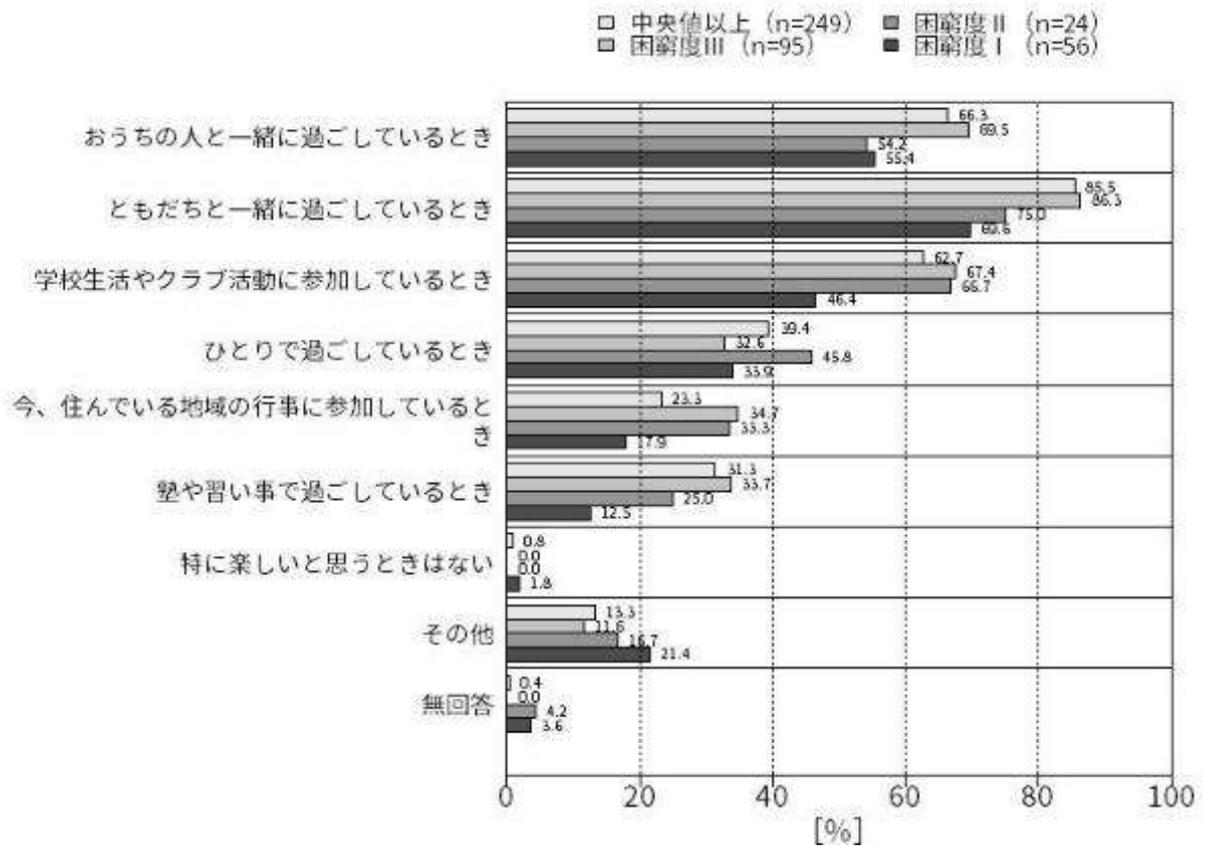
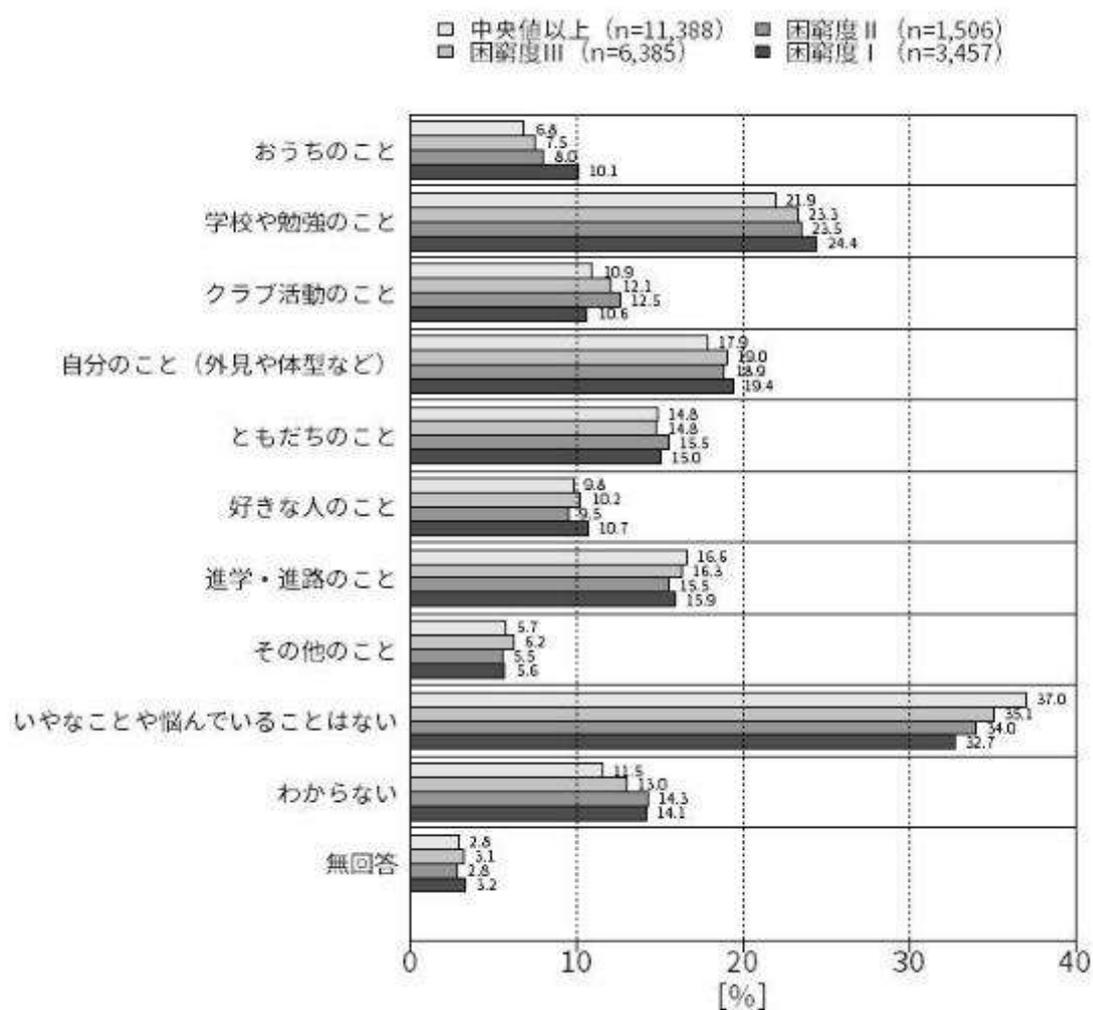


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.8%（中央値以上群に対して、2.3倍）、「その他」21.4%（1.6倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



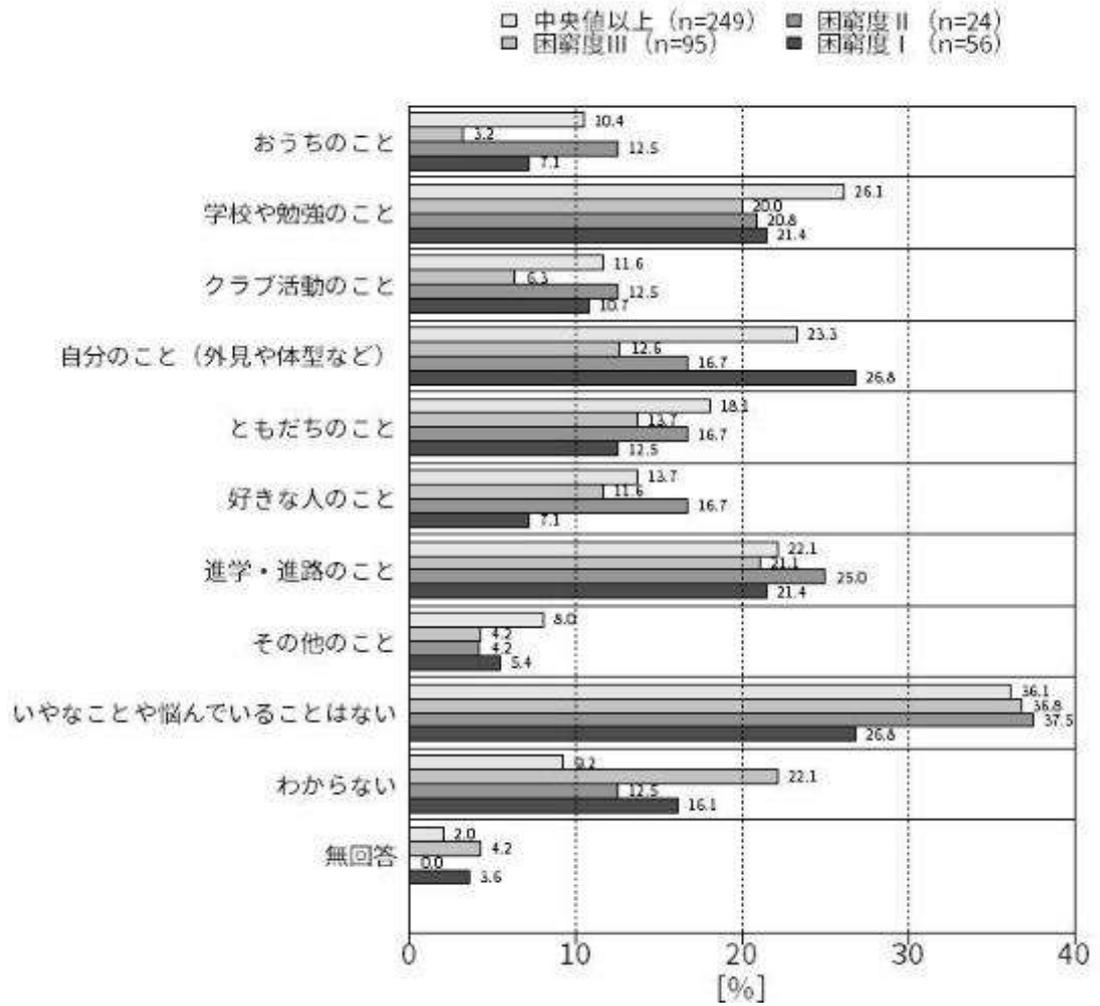


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度 I 群では、「わからない」16.1%（中央値以上群に対して、1.8 倍）が高く、中央値以上群では「好きな人のこと」13.7%（困窮度 I 群に対して、1.9 倍）、「その他のこと」8.0%（1.5 倍）、「おうちのこと」10.4%（1.5 倍）が高かった。